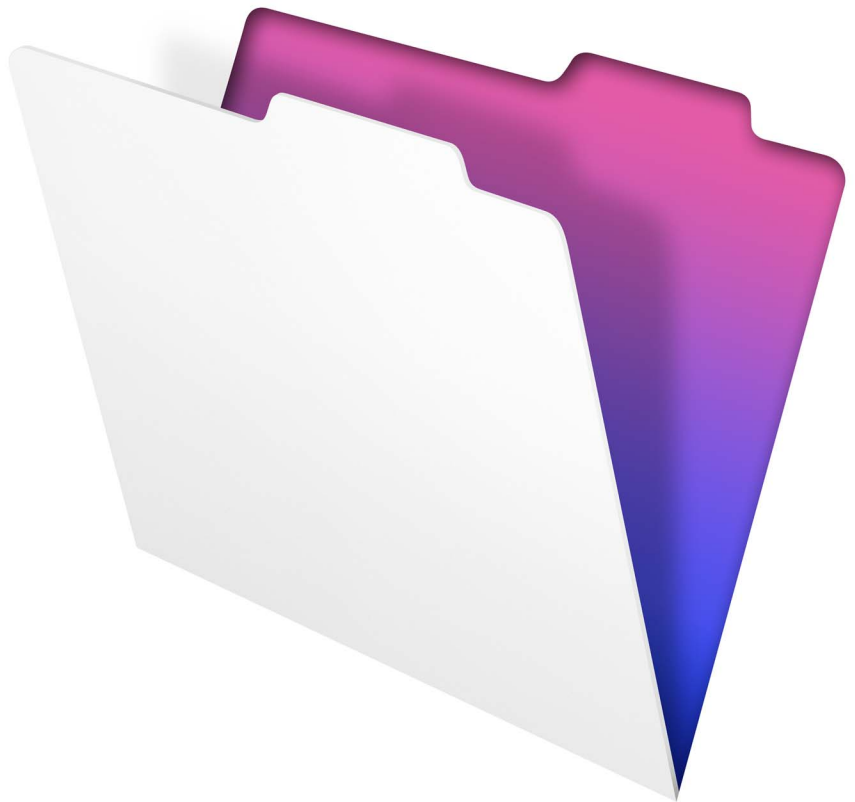


FileMaker® Pro 11

Advanced

デベロップメントガイド



© 2007–2010 FileMaker, Inc. All Rights Reserved.

FileMaker, Inc.
5201 Patrick Henry Drive
Santa Clara, California 95054

FileMaker、ファイルメーカーは、FileMaker, Inc. の米国及びその他の国における登録商標です。ファイルフォルダロゴは、FileMaker, Inc. の商標です。その他のすべての商標は該当する所有者の財産です。

FileMaker のドキュメンテーションは著作権により保護されています。FileMaker, Inc. からの書面による許可無しに、このドキュメンテーションを複製したり、頒布することはできません。このドキュメンテーションは、正当にライセンスされた FileMaker ソフトウェアのコピーがある場合そのコピーと共にのみ使用できます。

製品及びサンプルファイル等に登場する人物、企業、E メールアドレス、URL などのデータは全て架空のもので、実在する人物、企業、E メールアドレス、URL とは一切関係ありません。スタッフはこのソフトウェアに付属する「Acknowledgements」ドキュメントに記載されます。他社の製品及び URL に関する記述は、情報の提供を目的としたもので、保証、推奨するものではありません。

詳細情報については www.filemaker.co.jp をご覧ください。

第 01 版

目次

第1章

FileMaker Pro Advanced の概要

このガイドについて	5
FileMaker Pro Advanced マニュアルの使用	5
PDF マニュアルのある場所	6
ランタイムソリューションのソフトウェアライセンスの遵守	6
開発者としての責任	7

第2章

データベースソリューションの作成

Developer ユーティリティの使用	9
ランタイムソリューションの作成について	10
以前のソリューションの変換とアップグレード	11
ソリューションのバインド	12
ランタイムデータベースソリューションの起動	13
ランタイムソリューションの頒布	13
ソリューションコンポーネントの編成	13
頒布方法の選択	14
ソリューション作成前後のテスト	15
ランタイムデータベースソリューションの更新ファイルの頒布	16
キオスクソリューションの作成	17

第3章

データベースソリューションのカスタマイズ

フィールドスキーマおよびテーブルスキーマのコピーまたはインポート	19
カスタム関数の作成	20
カスタムメニューについて	20
カスタムメニューのサンプル	21
カスタムメニューの作成	22
カスタムメニュー項目の作成	23
カスタムメニューセットの作成	24
カスタムレイアウトスタイルの作成	25
スタイルファイルの必要条件	27

第4章

ファイルのデバッグおよび分析

スクリプトのデバッグ	29
スクリプトステップの無効化	30
データビューアの使用	31
データベースデザインレポートの使用	33

第5章

サードパーティ FileMaker プラグインの開発

プラグインをユーザにアクセスできるようにする	35
プラグインのインストール	35
プラグインの有効化	36
プラグインの設定	36

付録 A

ランタイムアプリケーションと FileMaker Pro の機能比較

アプリケーションおよびファイルの初期設定	38
メニューコマンドの比較	39
無視されるスクリプトステップ	44
保存されたレジストリ設定または環境設定	45

索引

47

第 1 章

FileMaker Pro Advanced の概要

FileMaker®Pro Advanced へようこそ。この製品には、特にデータベース開発者向けに設計された、高度な開発とカスタマイズのためのツールが含まれています。データベースソリューションの作成とテストには、FileMaker Pro または FileMaker Pro Advanced のどちらでも使用することができます。

FileMaker Pro で利用できる機能に加えて、FileMaker Pro Advanced では次の機能も利用できます。

- Developer ユーティリティ。ランタイムデータベースソリューションを作成、カスタマイズ、および導入します。
- データベースデザインレポート機能。データベースの構造またはスキーマに関してあらゆる情報を網羅したドキュメントを発行します。
- スクリプトデバッガ。FileMaker スクリプトの体系的なテストおよびデバッグを行うことができます。
- データビューア。フィールド、変数、計算式を監視できます。
- コピー機能。フィールド、テーブルをコピーできます。また、同じファイル内で、または異なるファイル間で、使用するテーブルスキーマのインポートもできます。
- カスタムメニュー機能。ソリューション用にカスタマイズしたメニューを作成できます。
- カスタム関数機能。ソリューション内で使用するカスタム関数を作成します。

このガイドについて

この『デベロップメントガイド』には、FileMaker Pro Advanced で利用できる機能の情報が含まれています。さらに、このガイドには、カスタムレイアウトスタイルおよび外部関数プラグインの作成方法の概要も含まれます。

製品機能の詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。

このガイドについてのフィードバックを送信するには、www.filemaker.com/company/documentation_feedback.html を参照してください。

既成のソリューションや FileMaker Knowledge Base など FileMaker の Web サイトにあるリソースにアクセスするには、[ヘルプ]メニュー>[リソースセンター]を選択してください。

FileMaker Pro の詳細について情報を得たり、他のユーザとサポートトピックについて話し合うには、FileMaker フォーラムを参照してください。[ヘルプ]メニュー>[FileMaker フォーラム]を選択してください。

FileMaker Pro Advanced マニュアルの使用

この『デベロップメントガイド』は、FileMaker Pro Advanced に付属するあらゆる情報を網羅した一連のマニュアルの 1 つです。また、FileMaker Pro Advanced には、FileMaker Pro 機能の詳細について説明するオンラインヘルプも含まれます。

このガイドでは、ユーザが FileMaker Pro または FileMaker Pro Advanced に精通しており、以前に FileMaker Pro Advanced の機能を使用してデータベースソリューションを作成した経験があることを想定しています。FileMaker ファミリ製品を初めてご使用になる方は、『FileMaker Pro ユーザーズガイド』を参照してください。

FileMaker Pro Advanced には、次のマニュアルが含まれています。

- 『FileMaker Pro Advanced デベロップメントガイド』（本マニュアル）：FileMaker Pro Advanced で利用できる機能の使用方法について説明します。
- 『インストールおよび新機能ガイド for FileMaker Pro and FileMaker Pro Advanced』：現在のバージョンのインストール手順および新機能のリストの情報が含まれています。
- 『FileMaker Pro ユーザーズガイド』：主要な概念や基本的な操作手順について説明します。
- 『FileMaker Pro チュートリアル』：FileMaker Pro データベースの作成方法および使用方法を学ぶためのレッスンが手順ごとに含まれています。
- 『FileMaker インスタント Web 公開ガイド』：ユーザがイントラネットやインターネット上で Web ブラウザを使用してアクセスできる FileMaker Pro および FileMaker Pro Advanced のデータベースを作成する方法について説明します。
- 『FileMaker ODBC と JDBC ガイド』：FileMaker ソフトウェアを ODBC クライアントアプリケーションおよび ODBC と JDBC アプリケーションのデータソースとして使用する方法について説明します。

PDF マニュアルのある場所

FileMaker マニュアルの PDF にアクセスするには：

- FileMaker Pro Advanced の [ヘルプ] メニュー > [製品マニュアル] を選択します。
- その他のマニュアルについては、www.filemaker.co.jp を参照してください。

PDF 形式のほとんどのマニュアルは、FileMaker Pro Advanced をインストールしたフォルダ内にあります。

FileMaker Pro Advanced をデフォルトのフォルダの場所にインストールした場合、PDF 形式のマニュアルは次の場所にあります。

- **Windows**：C:\Program Files\FileMaker\FileMaker Pro Advanced\日本語エキストラ\マニュアル (PDF)
- **Mac OS**：Macintosh HD/アプリケーション/FileMaker Pro Advanced/日本語エキストラ/マニュアル (PDF)

ランタイムソリューションのソフトウェアライセンスの遵守

FileMaker Pro Advanced のソフトウェアライセンスでは、FileMaker Pro ランタイムデータベースソリューションをいくつでも無償で配布することが許可されています。ただし、次の条件を含む遵守しなければならない条件がいくつかあります。

- すべてのエンドユーザにテクニカルサポートを提供する必要があります。
- 作成者の名前と住所、およびテクニカルサポートの電話番号が含まれる「情報 (About スクリーン)」レイアウトを提供する必要があります。「情報 (About スクリーン)」レイアウト作成の詳細については、次のセクションを参照してください。
- FileMaker Pro Advanced ソフトウェアを使用する前に、FileMaker Pro Advanced インストーラによって表示される FileMaker Pro Advanced ソフトウェアライセンスの条項を読み、同意する必要があります。

開発者としての責任

FileMaker では、ファイルの修復に関する所定の手続きを設定しています。ユーザがこれらの手続きに準拠している場合、FileMaker は、ユーザに修復ファイルを提供することがあります。

パスワードが指定されたデータベースファイルを頒布するか、完全アクセス権を削除している場合に、このサービスを要求したユーザのファイルを FileMaker が修復することを希望しない場合、次の作業を行う必要があります。

1. 本人以外は提供できないデータベースソリューションまたはパスワード、あるいはその両方が使用されていることを書面でユーザに通知し、通知文書を保管します。
2. データベースのどのレイアウトからでもアクセス可能な「情報 (About スクリーン)」レイアウトが、ランタイムデータベースソリューションの全ファイルに含まれている必要があります。
3. レイアウト名は、「<ソリューション名>について ...」の形式である必要があります。
4. 「情報 (About スクリーン)」レイアウトに次の項目が含まれている必要があります。

- ソリューション名
- 会社名と連絡先情報
- サポートポリシー (例: テクニカルサポート方法と対応時間)

5. 「情報 (About スクリーン)」レイアウトには次の警告メッセージを表示する必要があります。

警告: このデータベースソリューションには、上記に指定したデベロッパのみが提供できるパスワードが設定されています。

「情報 (About スクリーン)」レイアウトの作成の詳細については、ヘルプを参照してください。

6. Developer ユーティリティの [管理アクセスをファイルから完全に削除] オプションを選択して、完全アクセス権をデータベースソリューションから完全に削除した場合、「情報 (About スクリーン)」レイアウトには、次のものと同一の警告を表示する必要があります。

警告: このフィールドはカスタマイズできません。このデータベースソリューションのカスタマイズに関する情報については、上記ソリューションデベロッパにお問い合わせください。

FileMaker ファイルのアカウントとアクセス権の保護機能だけでは、ユーザによるファイルへのアクセスを完全には防止できません。FileMaker は、ユーザが他社のソリューションやツールを使用してパスワードを判別したり、バイパスすることがないとは保証できません。したがって、FileMaker では、コンサルティングや開発の労力を保護するため、パスワード以外の適切な手順も実行することをお勧めします。アカウントとアクセス権の詳細については、ヘルプを参照してください。

ユーザとの間に問題がある場合、直接そのユーザと問題を解決する必要があります。FileMaker では、そのような問題を解決できません。また解決を試みることもありません。

第2章

データベースソリューションの作成

FileMaker Pro Advanced の Developer ユーティリティを使用すると、次の操作を行うことができます。

- 一連のデータベースファイルの名前を変更し、関連するファイルおよびスクリプトへの内部リンクを自動的に更新する
- データベースファイルを、FileMaker Pro や FileMaker Pro Advanced の実行を必要としないスタンドアロン形式のランタイムデータベースソリューションにバインドする
- すべてのアカウントの管理アクセス権を削除し、ユーザがデータベースのデザイン要素や構造要素を変更できないようにする
- データベースファイルをキオスクモードで表示する
- ファイルに FileMaker Pro のファイル拡張子を付加する

メモ FileMaker Pro Advanced の使用に関するあらゆる情報を網羅した詳細および手順ごとの操作については、「FileMaker Pro ヘルプ」を参照してください。

Developer ユーティリティの使用

データベースファイルをカスタマイズしたり、ランタイムソリューションにバインドしたり、ランタイムソリューションを実行するには次の操作を行います。

1. カスタマイズするすべてのデータベースファイルを閉じます。
2. [ツール]メニュー > [Developer ユーティリティ ...] を選択します。
3. 以前に同じデータベースに対して Developer ユーティリティを使用したことがあり、その設定が保存されている場合は、[設定をロード ...] をクリックします。
設定ファイルを指定できるように、ダイアログボックスが開きます。
4. [追加 ...] をクリックして、カスタマイズするファイルを選択します。
5. ランタイムソリューションに複数のファイルをバインドする場合は、リストのファイルをダブルクリックし、メインファイルを指定します。
6. ファイルを名前変更するには、リストからファイルを選択し、[ファイルの名前変更:] ボックスに新しいファイル名を入力して[変更] をクリックします。
7. ファイルを削除するには、リストからファイルを選択し、[削除] をクリックします。
8. [プロジェクトフォルダ]の[指定...] をクリックして、データベースソリューションのコピーを保存する場所を選択します。
9. 古いファイルが新しいファイルによって上書きされないようにするには、[プロジェクトフォルダ内の一致するファイルを上書き]の選択を解除します。
重要 [プロジェクトフォルダ内の一致するファイルを上書き]が選択されている場合、ファイルの一覧に表示されているファイルと同じ名前のファイルは上書きされます。
10. 次のいずれかの操作を行います。
 - 新しい名前データベースファイルのコピーを作成する場合は、[作成] をクリックします。

メモ FileMaker Pro Advanced は、関連するファイルとスクリプトへの内部リンクを自動的に更新します。

- データベースファイルをカスタマイズしたり、ファイルをバインドしたりするには、[ソリューションオブジェクト]で[指定...] をクリックします。

11. [ソリューションオプションの指定] ダイアログボックスで、1つまたは複数のオプションを選択します。

目的	実行方法
データベースをランタイムアプリケーションにバインドする	[ランタイムソリューションアプリケーションの作成]を選択します。 メモ このオプションは、[データベースには FileMaker のファイル拡張子が必要]以外のすべてのオプションと組み合わせることができます。 10 ページの「ランタイムソリューションの作成について」を参照してください。
ソリューションへの管理アクセスを完全に禁止する	[管理アクセスをファイルから完全に削除]を選択します。 重要 管理アクセスを削除すると、カスタムソリューションに復元できません。 データベースの管理アクセスの削除の詳細については、ヘルプを参照してください。
完全アクセス権を持たないアカウントはソリューションをキオスクモードで開くようにする	[管理 アカウント以外に対してキオスクモードを有効化]を選択します。 17 ページの「キオスクソリューションの作成」を参照してください。
データベースファイルのファイル名に FileMaker の拡張子を付加する	[データベースには FileMaker のファイル拡張子が必要]を選択します。 メモ [ランタイムソリューションアプリケーションの作成]が選択されている場合、このオプションは使用できません。この機能を使用すると、拡張子のないファイルに拡張子を付加することができます。
ログファイルを作成して、処理中に検出されたエラーを記録する	[処理エラーのエラーログの作成]を選択します。 エラーログの保存場所とファイル名を指定します。 メモ <ul style="list-style-type: none"> ■ エラーログファイルのファイル名と場所を指定しない場合、「Logfile.txt」というファイル名でプロジェクトフォルダ内に保存されます。 ■ オプションの処理中にエラーが発生した場合は、エラーログファイルにエラーが記録されます。エラーが検出されたことを示すエラーメッセージが表示される場合もあります。

12. [OK] をクリックします。

13. この手順を簡単に繰り返すことができるようにするには、[設定を保存...] をクリックして、設定ファイルを保存するフォルダと場所を選択します。ソリューション設定の保存の詳細については、ヘルプを参照してください。

14. [作成] をクリックします。

ランタイムソリューションの作成について

Developer ユーティリティを使用して、ユーザが FileMaker Pro や FileMaker Pro Advanced を実行せずにアクセスできるスタンドアロン形式のランタイムデータベースソリューションを作成します。Developer ユーティリティによって、ファイルのコピーが作成され、指定した名前データベースファイルがランタイムアプリケーションにバインドされます。

ランタイムアプリケーションには、FileMaker Pro の機能がすべて含まれているわけではありません。ランタイムアプリケーションと FileMaker Pro の相違点の一覧については、付録 A「ランタイムアプリケーションと FileMaker Pro の機能比較」を参照してください。

データベースファイルは、ユーザへの頒布用に準備する前に複数回バインドしなければならない場合があります。開発が完了し、最終バージョンをバインドして頒布の準備ができたなら、ランタイムソリューションを徹底的にテストし、意図したとおりに動作することを確認します。

メモ FileMaker Pro および FileMaker Pro Advanced では、データベースファイルにいくつでもデータベーステーブルを含めることができるようになりました。この機能によって、複数のファイルを使用する主な理由の1つが解消されます。ただし、スクリプトやアクセス権などの要素はファイルレベルで保存されるため、一部の複雑なソリューションでは、引き続き複数のファイルを使用した方が便利です。

データベースソリューションを構築する前に、ユーザによる操作方法を決定しておく必要があります。データベースソリューションには、次のような要素を含めることができます。

- すべての関連ファイルを接続するメインデータベースファイル
- 関連ファイルを開く、閉じる、メインファイルに戻る、起動時にスプラッシュスクリーンレイアウトを表示する、または、ランタイムアプリケーションを終了するなどの操作を行うスクリプトおよびボタン
- 異なるプラットフォームで使用できる共通する要素と一貫性のあるインターフェース
- ポップアップヘルプとカスタムメニュー
- ソリューションの各ファイルで使用されるカスタムレイアウトスタイル
- ソリューションを紹介するための「情報 (About スクリーン)」レイアウト (必須)
- ソリューション使用時のヒントを説明するカスタムヘルプシステム
- レイアウト、メニュー、特定のテーブル、レコード、フィールドなどに対するアクセスのレベルを指定できる複数のアクセス権セット
- アカウントユーザのアクセスレベルを決定するアクセス権セットに割り当てられた、パスワードで保護されたアカウント

ランタイムソリューションを使用する必要があるユーザについては、13 ページの「ランタイムソリューションの頒布」を参照してください。

以前のソリューションの変換とアップグレード

FileMaker Pro 3.0 以前の SDK (Solutions Development Kit)、ファイルメーカー Pro 4.0 Developer Edition のバインダユーティリティ、または ファイルメーカー Developer 5.x と 6.0 の Developer Tool を使用して FileMaker Pro ランタイムデータベースソリューションを開発した場合、ソリューションをアップグレードして、変換済みのファイルをユーザに提供することができます。以前のツールを使用してランタイムアプリケーションにバインドされているファイルは、Developer ユーティリティを使用して再度バインドする必要があります。

バージョン 6.0 以前で作成された FileMaker Pro ファイルは、新しいファイル形式に変換する必要があります。1 つのファイルを変換するか、または一度に複数のファイルを変換することができます。ファイルの変換の詳細については、ヘルプを参照してください。

ファイルを変換すると、FileMaker Pro と FileMaker Pro Advanced の新しい機能を活用できるようにアップグレードできます。必要に応じてスクリプトを作成し、ユーザの既存のデータを、古いランタイムデータベースソリューションから、アップグレード済みの新しいソリューションにインポートできるようにします。アップグレード済みランタイムソリューションにデータをインポートする場合の詳細については、ヘルプを参照してください。Developer ユーティリティを使用して、アップグレードした新しいランタイムデータベースソリューションにソリューションファイルをバインドします。

アップグレードした新しいランタイムデータベースソリューションを頒布し、新しいランタイムアプリケーションで古いファイルを変換してアップグレードする方法や、データをインポートする方法を説明するドキュメントもユーザに提供します。

ソリューションのバインド

データベースファイルをランタイムデータベースソリューションにバインドするには、次の操作を行います。

1. 9 ページの「Developer ユーティリティの使用」の手順に従います。
2. [ソリューションオプションの指定] ダイアログボックスで、[ランタイムソリューションアプリケーションの作成] を選択します。
3. ランタイムアプリケーションに名前を付けるには
 - [ランタイム名:] に名前を入力します。名前は、ランタイムアプリケーションのファイル名、およびランタイムデータベースソリューションファイルが含まれるフォルダ名として使用されます。
 - [拡張子:] に 3 文字のファイル拡張子を入力します。拡張子によって、ソリューションファイルとランタイムアプリケーションが関連付けられます。

ランタイムソリューションの名前付けの詳細については、ヘルプを参照してください。

4. [バインドキー:] に、1 文字から 24 文字のキーを入力します。

バインドキーは、ランタイムアプリケーションをデータベースファイルにリンクし、バインドされたファイルが適切なランタイムアプリケーションでのみ開かれるようにします。バインドキーでは、大文字と小文字が区別されます。バインドキーの設定の詳細については、ヘルプを参照してください。

重要 バインドすると、各プラットフォームに関連するシステムファイルがインストールされます。ソリューションを Windows システムで使用する場合は、Windows 用の Developer ユーティリティを使用してバインドします。ソリューションを Mac OS X システムで使用する場合は、Mac OS X 用の Developer ユーティリティを使用してバインドします。Windows と Mac OS X の両方で使用するソリューションを作成する場合は、元のソリューションファイルを 2 回バインドして、2 つの別々のランタイムソリューションを作成します。まず Windows 用の FileMaker Developer ユーティリティを使用し、次に Mac OS X 用の FileMaker Developer ユーティリティを使用します。両方のプラットフォームで同じバインドキーを使用します。

5. 終了時のスプラッシュスクリーンに会社のロゴなどのカスタム画像を追加するには、[指定 ...] をクリックして画像を選択してから、[選択] をクリックします。

画像は 32 x 175 ピクセル (72 dpi) 以上にします。これより小さい画像は歪んで表示されます。使用できる画像形式は JPEG と GIF です。

6. [表示時間 (2 から 12 秒):] に、スプラッシュスクリーンを表示する秒数を入力します。

[プレビュー ...] ボタンをクリックすると、カスタムスプラッシュスクリーンがどのように表示されるかをプレビューすることができます。

7. オプションの指定が完了したら、[OK] をクリックします。

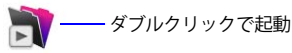
8. この手順を簡単に繰り返すことができるようにするには、[設定を保存 ...] をクリックして、設定ファイルを保存するフォルダと場所を選択します。

Developer ユーティリティ設定の保存と再使用の詳細については、ヘルプを参照してください。

9. [作成] をクリックします。

Developer ユーティリティによって、ランタイムソリューションに基づく名前の新しいフォルダがプロジェクトフォルダ内に作成され、そのフォルダにすべてのランタイムファイルがコピーされます。

ランタイムデータベースソリューションの起動



ランタイムアプリケーションのアイコン



ソリューションファイルのアイコン

重要 エンドユーザは、ソリューションファイルのアイコンではなくランタイムアプリケーションのアイコンをダブルクリックしてソリューションを起動する必要があります。ソリューションまたは関連ファイルのアイコンをダブルクリックすると、ハードディスク上に他のランタイムアプリケーションがある場合に、エラーが発生することがあります。コンピュータ上に同じ3文字の拡張子と関連付けられた複数のソリューションがある場合、ソリューションファイルのアイコンをダブルクリックすると、最初にインストールされたソリューションがファイルを開こうとしますが、これがその特定のファイルに対する正しいアプリケーションとは限りません。

ランタイムソリューションの頒布

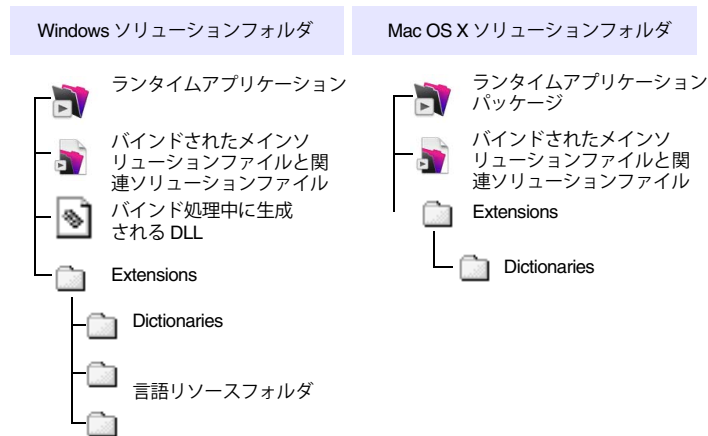
FileMaker Pro ランタイムソリューション開発の最終段階は、すべての必要なファイルをバンドルし、ソリューションの頒布方法（たとえば、CD-ROM またはネットワーク）を決定し、ソリューションのインストール方法についてのドキュメントを準備することです。さらに、ドキュメントには、ランタイムアプリケーションを使用するための指示とファイルが損傷した場合の対処方法も記載する必要があります。

重要 Windows：ランタイムソリューション（実行可能なソリューションも含む）を頒布する適切な方法は、インストーラソフトウェアを使用することです。このソフトウェアを使用すると Windows ファイルシステムの適切な保存場所にコンポーネントをインストールでき、アンインストール機能も備えています。インストールされたファイルの保存場所や保存場所の制限事項に関する情報については、Microsoft の Web サイトを参照してください。Windows Vista では、特定の制限が課されており、インストーラのみが書き込める保存場所に保存するには、いくつかのランタイムコンポーネント、たとえば Microsoft Visual C++ 2008 SP1 Redistributable Package (x86) が必要です。

ソリューションコンポーネントの編成

データベースファイルをランタイムデータベースソリューションにバインドする際に、Developer ユーティリティは新規ソリューションフォルダを作成し、その中に、ランタイムアプリケーション、バインドされたメインデータベースファイルと関連データベースファイル、および「Extensions」フォルダを格納します。Windows 用ランタイムソリューションの場合には、必要な DLL (Dynamic Link Library) ファイルもあります。

メモ 複数のファイルを1つのフォルダに移動してランタイムソリューションを作成するときは、内部リンクに影響が及ぶことに注意してください。このような理由から、各データソースには、参照されるファイルのファイル名だけで構成されるパスを含める必要があります。ランタイムアプリケーションは他のデータソースも確認しますが、ファイル名みのパスを使用すると、ランタイムアプリケーションと同じフォルダ内で目的のファイルを見つけることができます。ファイルが FileMaker Pro や FileMaker Pro Advanced でも使用される場合は、同じデータソース参照に絶対パスまたは相対パスを保持しておくことができます。



頒布用の Windows および Mac OS X ソリューションコンテンツの例

重要 これらのファイルおよびフォルダの名前を変更することはできません。

Mac OS X ランタイムアプリケーションパッケージおよび Windows の「Extensions」フォルダおよび DLL の内容の詳細については、ヘルプを参照してください。

ランタイムデータベースソリューションにカスタムファイルが必要な場合は、ランタイムファイルとともに用意する必要があります。プラグインは「Extensions」フォルダに保存します。開発者がユーザのシステムにないフォントを使用している場合、ランタイムアプリケーションにより代用フォントが使用されます。ランタイムにフォントが含まれている場合は、インストーラプログラムを使用してフォントをインストールできるように用意する必要があります。次の「カスタムインストールプログラムの使用」を参照してください。

ユーザには、これらのランタイムファイルの他にインストール手順も提供する必要があります。デベロッパソリューションのドキュメントの詳細については、ヘルプを参照してください。

頒布方法の選択

ソリューションを構成するファイルの編成後、インストール方法を決定する必要があります。バンドルされたソリューションは、CD-ROM、ネットワーク、インターネットなどで頒布できます。ランタイムデータベースソリューションを実行するには、エンドユーザは FileMaker Pro Advanced アプリケーションに必要なハードウェアおよびソフトウェアの最低必要要件を満たす必要があります。

カスタムインストールプログラムの使用

カスタムインストールプログラムを使用して、ユーザがインストールできるようにランタイムソリューションをパッケージ化することをお勧めします。カスタムインストールプログラムを設定して、ランタイムデータベースソリューションファイルをインストールするには、圧縮ユーティリティを使用する場合よりも技術的な作業が必要ですが、問題なく確実にインストールを実行することができます。

使用できるカスタムインストールアプリケーションは次のとおりです。

- MindVision Installer VISE
- InstallShield MultiPlatform
- MacInstallerBuilder

圧縮ユーティリティプログラムの使用

ランタイムソリューションが複雑でなく、エンドユーザの技術的な経験が十分であることがわかっている場合は、カスタムインストールプログラムではなく、圧縮ユーティリティプログラムを使用することをお勧めします。

ネットワークでのソリューションの共有

ネットワークを介してランタイムデータベースソリューションを共有するには、コンピュータにインストールされている FileMaker Pro または FileMaker Pro Advanced を使用してファイルにアクセスする必要があります。ファイルへのネットワークアクセスを有効にしたり、変更したりするには、マスタパスワードが必要です。高いパフォーマンスが必要な場合は、FileMaker Server を使用してソリューションファイルを共有することができます。

FileMaker Server と FileMaker Pro 製品、およびボリュームライセンス販売に関する情報については、FileMaker の Web サイト (www.filemaker.co.jp) を参照してください。

損傷ファイルの修復

停電、ハードウェアの問題、またはその他の原因により、FileMaker データベースファイルが損傷を受ける場合があります。データベースソリューションが損傷した場合、エンドユーザは損傷したファイルを修復する必要があります。ランタイムアプリケーションにより損傷ファイルが検出されると、開発者に連絡するように通知するダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックスが表示されなくても、ファイルが破損していて、異常な動作をする場合があります。

ランタイムファイルの修復の詳細については、ヘルプを参照してください。

「情報 (About スクリーン)」レイアウトの作成

ランタイムデータベースソリューションの場合、テクニカルサポートの連絡先を示す「情報 (About スクリーン)」レイアウトを作成することが FileMaker Pro Advanced ソフトウェアライセンスで指定されています。FileMaker では、「情報 (About スクリーン)」レイアウトを使用して、開発者が FileMaker Pro Advanced を使用して作成したデータベースと、FileMaker Pro のユーザが作成したデータベースを区別します。

ランタイムデータベースソリューションの「情報 (About スクリーン)」レイアウトに表示する必要がある項目の詳細については、7 ページの「開発者としての責任」を参照してください。

カスタムヘルプレイアウトの作成

FileMaker Pro Advanced のヘルプシステムは、ランタイム アプリケーションでは利用できません。

カスタムソリューションの使用方法やデータの入力方法を説明した「ヘルプ」レイアウトを作成します。レイアウトを作成したら、ヘルプシステムを表示するソリューションのメインファイルにスクリプトを作成します。カスタムメニュー機能を使用して、作成したスクリプトを [ヘルプ] メニューのコマンドとして利用できるようにします。

ソリューションをドキュメント化する Web ページを作成するには、Web ページを開く Web ビューアをヘルプレイアウトに設定します。

Mac OS でカスタムヘルプメニューを表示するには、空のメニューから作成する必要があります。カスタムメニューの作成と編集の詳細については、20 ページの「カスタムメニューについて」を参照してください。

ソリューション作成前後のテスト

Developer ユーティリティを使ってデータベースソリューションをカスタマイズする前とその後、データベースソリューションのすべての機能を確認する必要があります。

カスタムデータベースソリューションの品質を保つには、次の作業を行います。

- ソリューションの関数とオプションをすべて確認します。Windows と Mac OS X の両方のプラットフォーム用にソリューションを開発している場合、両方のプラットフォームでテストを行います。
- ランタイムアプリケーションでは非表示または無効になる FileMaker Pro の標準機能が、ランタイムデータベースソリューションで使用されていないことを確認します。付録 A 「ランタイムアプリケーションと FileMaker Pro の機能比較」を参照してください。

- すべてのスクリプトとボタンが正しく動作することを確認します。これは、ソリューションをキオスクモードで表示する場合、特に重要です。17 ページの「キオスクソリューションの作成」を参照してください。
- インストール手順を確認し、ドキュメントに記載されているその他の手順をテストします。
- 色数や解像度が異なるモニタや、ユーザが使用する可能性がある最も小さいサイズのモニタでもデータベースレイアウトが正しく表示されることを確認します。
- 実際のデータを使ってランタイムデータベースソリューションをテストします。これは、ユーザが以前のバージョンのランタイムアプリケーションをアップグレードし、新しいソリューションファイルにデータをインポートする必要がある場合に特に重要です。
- すべての関連ファイルと DLL (Windows) が存在していることを確認します。
- データベースソリューションをユーザに公開し、ユーザビリティの問題を特定します。
- バンドルされたデータベースファイルをまったく別のコンピュータにインストールして、メインファイルに関連付けられているすべてのファイルを正しく検出できることを確認します。
- パスワードを割り当てる場合、または完全アクセス権を完全に削除する場合は、すべてのアクセスレベルをテストします。
- 設定されているアクセスレベルをユーザに通知する「情報 (About スクリーン)」レイアウトがデータベースソリューションに含まれることを確認します。

重要 完全アクセス権を完全に削除する場合は、ランタイムソリューションとしてバインドする前のデータベースソリューションファイルを保持しておく必要があります。

ランタイムデータベースソリューションの更新ファイルの頒布

ランタイムデータベースソリューションのバインドされたメインファイルの機能を拡張または変更した場合には、エンドユーザに更新されたファイルを頒布することができます。更新されたファイルの再バインドは必要ありません。ただし、メインファイルのファイル名を変更する場合は、ファイルを再バインドして更新されたファイルとともに新規バージョンのランタイムアプリケーションを頒布する必要があります。

ソリューションの新規関連ファイルまたは更新関連ファイルを頒布するには、まず元のバインドキーを使用してそれらをバインドする必要があります。メインファイル内に新しいデータソースが必要な新しい関連ファイルや、操作に他のファイルが必要な新しい関連ファイルを頒布する場合は、変更されたすべてのファイルを更新する必要があります。ファイルを更新または追加する際にランタイムデータベースソリューションの元のバインドキーを忘れた場合には、新しいバインドキーを使用してすべてのデータベースファイルを再バインドし、全ソリューションを再頒布する必要があります。

更新されたメインファイルを頒布するには、次の操作を行います。

1. FileMaker Pro Advanced で、ランタイムソリューションのコピーから元のメインファイルを開きます。
2. メインファイルを変更します。
3. 必要な場合は、インポートスクリプトを作成してエンドユーザが既存のデータを新規メインファイルにインポートできるようにします。

アップグレード済みランタイムソリューションにデータをインポートする場合の詳細については、ヘルプを参照してください。

4. ランタイムデータベースソリューションのフォルダ内の古いメインファイルと交換することを促す指示を付けて、新規メインファイルのコピーをエンドユーザに送ります。

新規関連ファイルまたは更新された関連ファイルを頒布するには、次の操作を行います。

1. FileMaker Pro Advanced で、新規関連ファイルを作成するか、または元の（バインドされる前の）関連ファイルを開いて必要な変更を加えます。
2. 必要場合は、インポートスクリプトを作成してエンドユーザが既存のデータを新規ファイルにインポートできるようにします。
アップグレード済みランタイムソリューションにデータをインポートする場合の詳細については、ヘルプを参照してください。
3. Developer ユーティリティを使用してランタイムデータベースソリューション中のすべてのファイルを再バインドし、新規関連ファイルまたは更新された関連ファイルを含めます。
メインファイルに使用したのと同じバインドキーを使用します。
4. ランタイムデータベースソリューションのフォルダ内に（該当する古い関連ファイルがある場合はそれと置き換えて）入れることを促す指示を付けて、新規関連ファイルまたは更新された関連ファイルのコピーをエンドユーザに送ります。
バインドキーが変更されていない限り、ランタイムアプリケーションまたは他のソリューションファイルを再頒布する必要はありません。

キオスクソリューションの作成

キオスクモードは、ツールバーやメニューを表示せずに、データベースソリューションまたはランタイムソリューションを画面全体に表示する方法です。名前のおり、キオスクモードでは、データベースを情報キオスクとしてユーザに提示することができます。データベースをタッチスクリーンで実行するようにデザインすることができます。

[完全アクセス] アクセス権セットが割り当てられたアカウント、拡張アクセス権を管理できるアクセス権セットが割り当てられたアカウント、またはレイアウト、値一覧、およびスクリプトを変更できるアクセス権セットが割り当てられたアカウントでソリューションを開いた場合、キオスクモードは無視されます。

ソリューションをキオスクモードで表示するには、次の設定を行う必要があります。

- アクセス権セットが限られたアカウントを作成するか、または特定のキオスクアカウントを作成する
- キオスクモードを有効にする。キオスクモードを有効にするときに、同時にデータベースをランタイムソリューションとしてバインドすることができます。
- 管理アカウントでファイルにログインするデフォルトのオプションを解除する

キオスクアカウントを作成するには、次の操作を行います。

1. アクセスアカウントが制限されていることを確認してください。
2. データベースソリューションが開いている状態で [ファイル] メニュー > [管理] > [セキュリティ...] を選択します。
3. [セキュリティの管理] ダイアログボックスで、[新規...] をクリックします。
4. [アカウントの編集] ダイアログボックスで、アカウント名を入力して、[アカウントのステータス:] の [アクティブ] を選択し、[アクセス権セット:] リストから [新規アクセス権セット...] を選択します。
5. [アクセス権セットの編集] ダイアログボックスで、アクセス権セットの名前と説明を入力します。
6. [レイアウト:]、[値一覧:]、および [スクリプト] には、[すべて表示のみ] または [すべてアクセスなし] を選択します。
7. [拡張アクセス権の管理] チェックボックスの選択を解除します。
8. 必要に応じて他のオプションを選択し、[OK] をクリックします。

キオスクモードを有効にするには、次の操作を行います。

1. 9 ページの「Developer ユーティリティの使用」の手順に従います。

2. [ソリューションオプションの指定] ダイアログボックスで、[管理アカウント以外に対してキオスクモードを有効化]を選択します。

3. 必要に応じて他のオプションを選択し、[OK]をクリックします。

4. この手順を簡単に繰り返すことができるようにするには、[設定を保存...]をクリックして、設定ファイルを保存するフォルダと場所を選択します。

ソリューション設定の保存の詳細については、ヘルプを参照してください。

5. [作成]をクリックします。

ファイルをランタイムアプリケーションにバインドしなかった場合、選択されたデータベースファイルが Developer ユーティリティによってプロジェクトフォルダにコピーされます。ファイルをランタイムアプリケーションにバインドした場合は、Developer ユーティリティによって、ランタイムソリューションに基づく名前の新しいフォルダがプロジェクトフォルダ内に作成され、そのフォルダにすべてのランタイムファイルがコピーされます。

管理アカウントでファイルにログインするデフォルトのオプションを変更するには、次の操作を行います。

1. データベースソリューションが開いている状態で、[ファイル]メニュー>[ファイルオプション...]を選択します。

2. [開く/閉じる]タブで、[次のアカウントを使用してログイン]チェックボックスの選択を解除します。

3. [OK]をクリックします。

キオスクモードで実行するソリューションを作成する際は、ユーザによるソリューションの操作方法および終了方法を考慮する必要があります。

メモ ステータスエリアを表示した以前のキオスクソリューションがある場合は、ご使用のソリューションを更新する必要があります。キオスクソリューションではステータスツールバーまたはレイアウトバーは表示できません。このためレイアウトにレコードの移動、スクリプトの停止ステータス、およびスクリプトのキャンセル、ならびに続行ボタンを追加する必要があります。

キオスクソリューションをコントロールするスクリプトおよびボタンの使用方法の詳細については、ヘルプを参照してください。

第3章

データベースソリューションのカスタマイズ

FileMaker Pro Advanced を使用すると、FileMaker Pro よりさらにソリューションのカスタマイズを進められます。次の操作が行えます：

- 同じファイルまたは他のデータベースファイル内部で使用するフィールドをコピーして貼り付け（ペースト）する
- 既存のテーブルをデータベースファイルにコピーまたはインポートする
- ファイル内で使用できるカスタム関数を作成する
- カスタムメニューを作成する
- カスタムレイアウトスタイルを作成する

重要 データベースソリューションをカスタマイズするには、完全アクセス権が必要です。

メモ FileMaker Pro Advanced の使用に関するあらゆる情報を網羅した詳細情報および手順ごとの操作については、ヘルプを参照してください。

フィールドスキーマおよびテーブルスキーマのコピーまたはインポート

ファイル内部で、または他のデータベースファイルに、フィールドスキーマとテーブルスキーマをコピーまたはインポートできます。

FileMaker Pro Advanced を使用して、複数ファイルのソリューションのテーブルを1つのファイルに統合できます。ソリューションを統合する方法には次の2つがあります。

- テーブルスキーマのコピー — ソースファイルを開いて必要なテーブルを選択してコピーします。次に、テーブルスキーマを保存先ファイルに貼り付け（ペースト）します。
- テーブルスキーマのインポート — テーブルスキーマを保存先ファイルに直接インポートします。スキーマ、または単一のスキーマのみのデータをインポートすることができます。（単一のスキーマのみのデータをインポートするには、[ファイル]メニュー>[レコードのインポート]サブメニュー>[ファイル...]を選択します。

目的	実行方法
フィールドスキーマのコピー	[ファイル]メニュー>[管理]>[データベース...]を選択し、[フィールド]タブをクリックします。一覧からフィールドを選択し、[コピー]をクリックします。データはコピーされません。
テーブルスキーマのコピー	コピーするテーブルが含まれているファイルを開きます。[ファイル]メニュー>[管理]>[データベース...]を選択し、[テーブル]タブをクリックします。一覧からテーブルを選択し、[コピー]をクリックします。
テーブルスキーマのインポート	テーブルのインポート先のファイルを開きます。[ファイル]メニュー>[管理]>[データベース...]を選択し、[テーブル]タブをクリックします。[インポート...]ボタンをクリックします。ソースファイルとテーブルを選択し、[OK]をクリックします。

フィールドとテーブルのコピーまたはインポートの詳細については、ヘルプを参照してください。

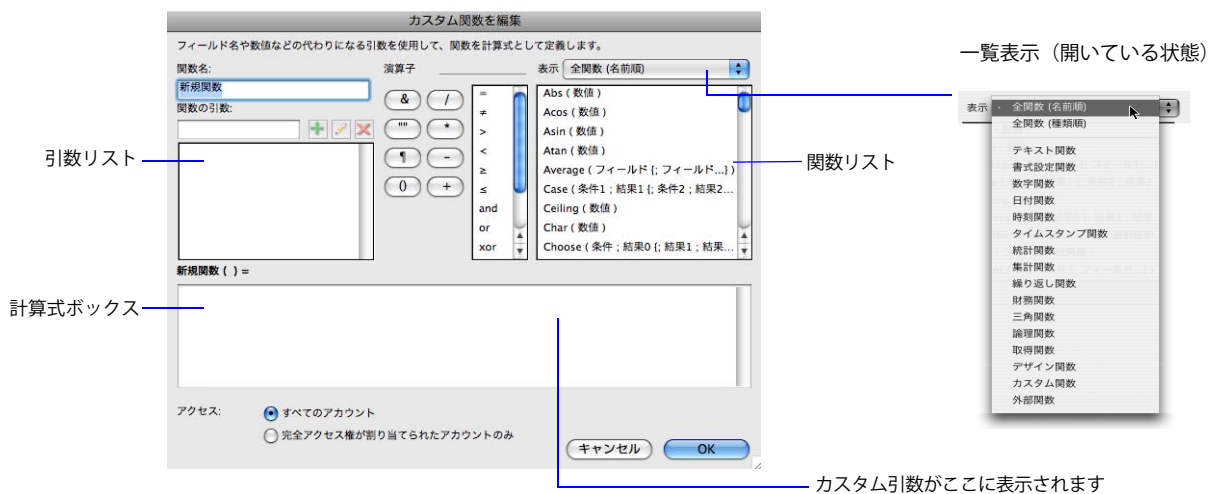
カスタム関数の作成

カスタム関数機能を使用して、データベースファイルの任意の場所で再利用でき、他の FileMaker Pro ファイルにコピー、およびインポートできるカスタム関数を作成します。一度関数に対して式を作成すれば、他のフィールドに適用したり、他のスクリプトで使用したりする場合に式を作成し直す必要はありません。

カスタム関数とカスタム関数に含まれる式を一元的に維持、および修正することができます。カスタム関数に適用された変更は、そのカスタム関数で使用されているすべてのインスタンスにコピーされます。

カスタム関数を作成するには、次の操作を行います。

1. [ファイル]メニュー>[管理]>[カスタム関数...]を選択します。
2. [カスタム関数の管理]ダイアログボックスで、[新規...]をクリックします。



【カスタム関数を編集】ダイアログボックス

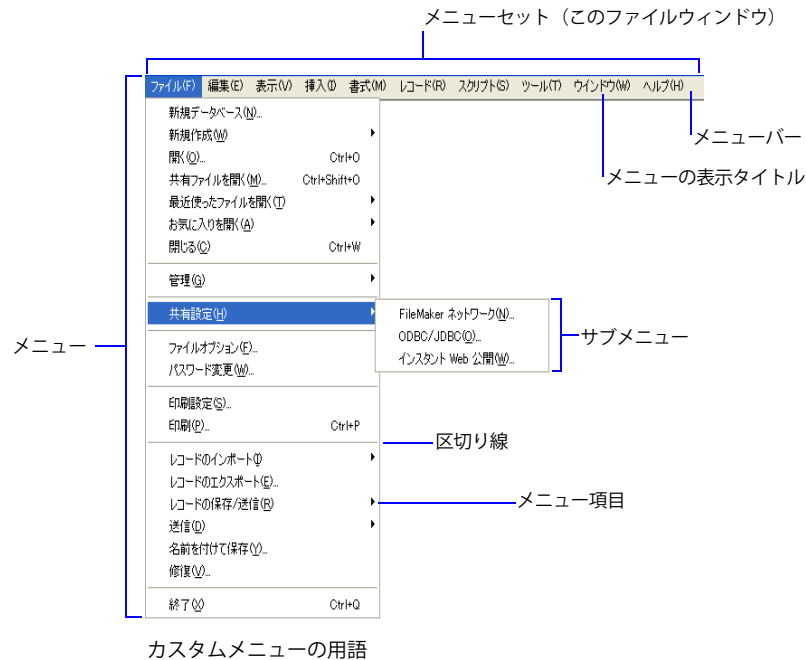
3. [カスタム関数を編集]ダイアログボックスに、関数の名前を入力し、式を作成します。
4. [OK]をクリックします。

カスタム関数の作成の詳細については、ヘルプを参照してください。

カスタムメニューについて

FileMaker Pro Advanced を使用して、データベースソリューションのカスタムメニュー、メニュー項目、メニューセットを作成できます。次の操作が行えます：

- メニューを作成するか、または既存のメニューを編集する
- メニューを複製または削除する
- メニュー項目を追加、複製、または削除する
- 表示タイトル、ショートカット、処理などメニュー項目のプロパティを指定する



カスタムメニューの用語

次の方法によって、メニューをカスタマイズできます。

- 標準 FileMaker メニューのコピーの編集。既存メニューの細かい変更ができます。たとえば、いくつかのメニュー項目のプロパティが変更できます。
- 空のメニューから作成。メニューの重要な変更ができます。たとえば、メニューの追加や、メニュー項目のプロパティの変更ができます。

カスタムメニューのサンプル

次のサンプルでは、[レコード]メニューに表示される[新規レコード]メニュー項目のカスタマイズ方法を示します。[新規レコード]メニュー項目の名前を[新規請求書]に変え、ユーザが[新規請求書]メニュー項目を選択したときに実行されるスクリプトを追加します。最後に、デフォルトのメニューセットを変更し、ユーザがデータベースを開いたときに、新しいカスタムメニューが表示されるようにします。

このサンプルでは、[新規請求書]というスクリプトがデータベースに含まれていると想定しています。[新規請求書]によって、いくつかのタスクが自動化されます。たとえば、請求書レイアウトへの切り替え、空のレコードの作成です。

1. データベースを開き、[ファイル]メニュー>[管理]>[カスタムメニュー...]を選択し、[カスタムメニュー]タブを選択します。
2. [レコード コピー]メニューをダブルクリックし、標準[レコード]メニューのコピーを編集します。
3. [新規レコード]メニュー項目を選択し、メニュー項目のプロパティを変更します。[デフォルト動作の上書き]で：
 - [項目名]を選択してから[新規請求書]を入力します。
 - [処理]を選択してから[新規請求書]スクリプトを指定します。
4. [OK]をクリックします。

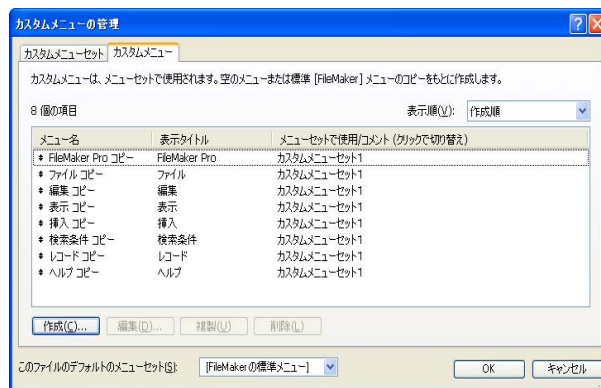
カスタムメニュー項目は、デフォルトの [カスタムメニューセット 1] で使用されます。FileMaker Pro でカスタムメニュー項目を表示するには、次の操作を行います。

1. [このファイルのデフォルトのメニューセット] で [カスタムメニューセット 1] を選択してから [OK] をクリックして、[カスタムメニューの管理] ダイアログボックスを閉じます。
2. [レコード] メニューを選択します。
[レコード] メニューの上部に [新規請求書] メニューが現れます。

カスタムメニューの作成

カスタムメニューを作成するには、次の操作を行います。

1. [ファイル] メニュー > [管理] > [カスタムメニュー ...] を選択し、[カスタムメニュー] タブを選択します。
[カスタムメニューの管理] ダイアログボックスが表示されます。



2. [作成] をクリックします。
3. [カスタムメニューの作成] ダイアログボックスで、次の操作のうち1つを行い、[OK] をクリックします。
 - [空のメニューから作成する] をクリックします。
 - [FileMaker の標準メニューから作成する] をクリックし、一覧からメニューを選択します。
[カスタムメニューの編集] ダイアログボックスが表示されます。
4. [カスタムメニューの編集] ダイアログボックスで、カスタムメニュー名、メニューについて説明するコメント (オプション)、メニューバーに表示するメニュータイトル、オペレーティングシステムプラットフォーム、メニューが表示される FileMaker Pro モードを指定します。これらのオプションの詳細については、ヘルプを参照してください。

メモ コメントは、ソリューションファイルではなく、[カスタムメニューの管理] ダイアログボックスに表示されます。

5. 次のセクションに説明されているとおりに、カスタムメニュー項目を作成します。

カスタムメニュー項目の作成

メニューの作成後、メニュー項目を作成できます。また、FileMaker の標準メニューのコピーであるメニュー項目を作成または編集することもできます。メニュー項目は、コマンド、サブメニュー、または区切り線にできます。標準の FileMaker コマンドに基づいたメニュー項目を作成できます。また、初期状態ではコマンドが割り当てられていないメニュー項目を作成することもできます。

FileMaker コマンドに基づいたメニュー項目を作成するとき、そのメニュー項目はコマンドの全プロパティを継承します。プロパティ（タイトル、ショートカット、または処理）を上書きして、メニュー項目をカスタマイズできます。コマンドを割り当てられていないメニュー項目を作成すると、[カスタムメニューの編集] ダイアログボックスの [メニュー項目] リストに、<不明>メニュー項目が表示されます。それからメニュー項目のプロパティをカスタマイズできます。

新規メニュー項目を作成するには、次の操作を行います。

1. [ファイル] メニュー > [管理] > [カスタムメニュー ...] を選択し、[カスタムメニュー] タブをクリックします。
2. [カスタムメニューの管理] ダイアログボックスで、メニュー項目を追加するメニューを選択し、[編集 ...] をクリックします。
3. [カスタムメニューの編集] ダイアログボックスで、メニューに含まれるメニュー項目を指定します。

目的	実行方法
コマンドの追加	[作成] をクリックして新規 (<不明>) メニュー項目をリストに追加します。[メニュー項目タイプ] で [コマンド] を選択してから [既存のコマンドを使用] をクリックします。[FileMaker コマンドの指定] ダイアログボックスでコマンドを選択し、[OK] をクリックします。 コマンドで、メニュー項目の処理または動作が決まります。
サブメニューの追加	[作成] をクリックして <不明> メニュー項目をリストに追加します。[メニュー項目タイプ] で [サブメニュー] を選択して [指定 ...] をクリックしてからメニューを選択し、[選択] をクリックします。 メモ 最大で 100 のメニューをメニューバーに追加できます。メニュー自体がサブメニューとして含まれているメニューを追加すると、すぐに限界に達する可能性があります。
区切り線の追加	[作成] をクリックして <不明> メニュー項目をリストに追加します。[メニュー項目タイプ] で [区切り線] を選択します。
メニュー項目の複製	一覧からメニュー項目を選択し、[複製] をクリックします。
メニュー項目の削除	一覧からメニュー項目を選択し、[削除] をクリックします。

矢印  を上下にドラッグして、一覧のメニュー項目の順序を変更します。

メニュー項目のプロパティを変更するには、次の操作を行います。

1. [メニュー項目] リストからメニューを選択してから、以下の操作のうち 1 つまたはフクスウを行います。

目的	実行方法
メニュー項目のコマンドの変更	既存のコマンドに基づいて変更する場合、[指定 ...] をクリックして別のコマンドを選択してから [選択] をクリックします。
あるタイプから別のタイプにメニュー項目を変更	[メニュー項目タイプ] で別のタイプを選択します。（たとえば、区切り線をコマンドに変更できます。）
メニュー項目の名前の変更	[項目名] を選択してから新しい名前を入力します。 メニュータイトルが計算結果に基づくようにするには、[指定 ...] をクリックし、[計算式の指定] ダイアログボックスで式を構築します。 Windows : アクセスキーを指定するには、アクセスキーとして使用する文字の前にアンパサンド (&) を入力します。たとえば、文字「&O」をアクセスキーとして使用する [開く] メニュー項目を表示するには、「開く (&O)」と入力します。
メニュー項目のショートカットの定義	[キーボードショートカット] を選択します。[ショートカットの指定] ダイアログボックスでキーの組み合わせを入力し、[OK] をクリックします。[メニュー項目] リストのメニュー項目の隣に、キーボードショートカットが表示されます。キーボードショートカットの詳細については、ヘルプを参照してください。

目的	実行方法
ユーザがメニュー項目を選択したときのスクリプトまたはスクリプトステップの実行	[処理] を選択します。[スクリプトステップの設定] ダイアログボックスでステップを選択し、必要に応じてオプションを指定し、[OK] をクリックします。 メモ 現在実行中のスクリプトの動作を変更（スクリプトの停止、終了、再開、一時停止など）するには、[スクリプト実行] スクリプトステップを使用します。 スクリプトとスクリプトステップの詳細については、ヘルプを参照してください。
スクリプトまたはスクリプトステップの変更	[処理] で [指定] をクリックしてスクリプトの定義を修正してから、[OK] を選択します。
メニュー項目を表示するプラットフォームの選択	[Windows] か [Macintosh]、またはその両方を選択します。指定されたプラットフォームで実行する FileMaker Pro ファイルでメニュー項目が表示されます。 メモ いくつかのコマンドは、1つのプラットフォームでのみ有効です。

2. [OK] をクリックします。

カスタムメニューセットの作成

カスタムメニューセットは、FileMaker Pro アプリケーションメニューバーに表示されるメニューのコレクションです。カスタムメニューセットを作成し、必要なメニューを含めることができます。メニューセットを作成した後、次のことが実行できます。

- 個々のレイアウトに対するメニューセットを指定する
- メニューセットを変更するスクリプトを作成する
- ソリューションファイルのメニューバーでデフォルトメニューセットを変更する
- FileMaker Pro Advanced の [ツール] メニューを使用して一時的にメニューセットを切り替える

メニューセットを作成または編集するには、次の操作を行います。

1. [ファイル] メニュー > [管理] > [カスタムメニュー ...] を選択し、[カスタムメニュー] タブを選択します。
2. [作成 ...] をクリックします。
3. [カスタムメニューセットの編集] ダイアログボックスで [追加 ...] をクリックして、メニューセットに含めるメニューを指定します。

目的	実行方法
このメニューセットへのメニューの追加	[追加 ...] をクリックし、[メニューの選択] ダイアログボックスで次のいずれかの操作を実行してから、[選択] をクリックします。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 一覧からメニューを選択します。 ■ [+] をクリックして新規メニューを作成します。詳細については、22 ページの「カスタムメニューの作成」を参照してください。 ヒント <ul style="list-style-type: none"> ■ 複数のメニューをメニューセットに追加するには、Shift キーを押しながらクリックするか、Ctrl (Windows) キー、または Command (Mac OS) キーを押しながらクリックします。 ■ [メニューの選択] ダイアログボックスでカスタムメニューを削除するには、[-] をクリックします。
このメニューセットでメニューのプロパティの変更	メニューを選択してから、[編集 ...] をクリックします。詳細については、23 ページの「カスタムメニュー項目の作成」を参照してください。
このメニューセットからのメニューの削除	メニューを選択してから、[削除] をクリックします。

4. [OK] をクリックして、[データベースの管理] ダイアログボックスに戻ります。

ヒント このファイルのデフォルトメニューセットを変更するには、[このファイルのデフォルトメニューセット]を選択してから [OK] をクリックします。新規メニューセットが FileMaker Pro で表示されます。

カスタムメニューセットの作成、インストール、テストの詳細については、ヘルプを参照してください。

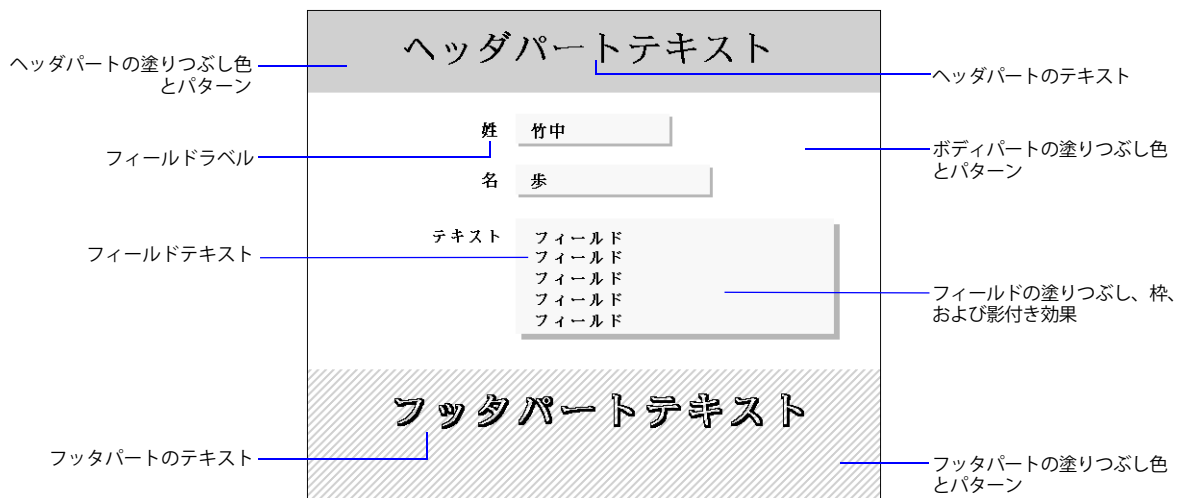
カスタムレイアウトスタイルの作成

FileMaker Pro および FileMaker Pro Advanced では、さまざまなレイアウトスタイルを使用して、新規レイアウトのテキスト、フィールド、およびパートの色、パターン、フォント、枠を表示します。

スタイルは、XML (Extensible Markup Language) ドキュメントです。テキストエディタ (Windows のワードパッド、Mac OS X の BBEdit など) や、XML エディタ (XMLSpy や XMetaL など) で開いて編集できます。既存のレイアウトスタイルをカスタマイズするか、または独自のレイアウトスタイルを作成したら、データベースのレイアウトを作成するときに、新規レイアウト/レポートアシスタントを使用してカスタムスタイルを適用できます。スタイルで定義されている属性は、レイアウトを作成した後に、レイアウトモードで変更することができます。ただし、既存のレイアウトにスタイルを適用することはできません。

メモ FileMaker のスタイルはスタイルシートではないので、レイアウト上のオブジェクトの配置情報は含まれません。

重要 レイアウトスタイルの XML は、適切に必要な構文に準拠している必要があります。必要な要素や属性が省略されていたり、開始タグと終了タグが一致しない部分があると、使用できないドキュメントが作成され、FileMaker Pro Advanced で XML を解析したり、新規レイアウト/レポートアシスタントにスタイルを表示することができなくなります。



レイアウトスタイルを作成して、レイアウトパート、フィールド、およびフィールドラベルのテキストと背景の塗りつぶしに、異なるスタイルを自動的に適用します。

スタイルを作成または変更するには、次の操作を行います。

1. 「Themes」フォルダのスタイルファイルを複製します。スタイルファイルは、次の場所にあります。

Windows : FileMaker Pro Advanced ¥ Extensions ¥ Japanese ¥ Themes ¥

または

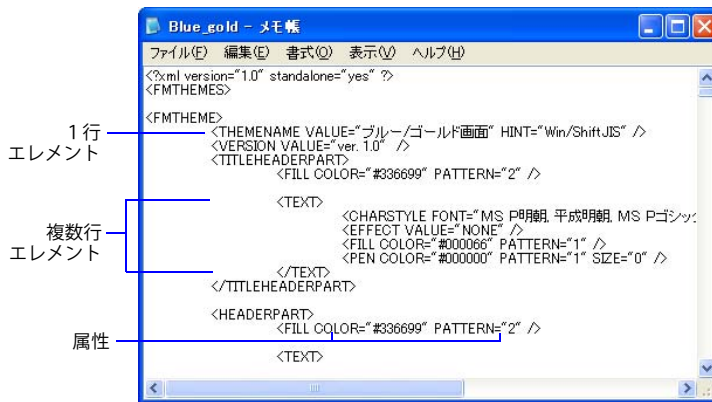
Mac OS X : FileMaker Pro Advanced/FileMaker Pro Advanced.app/Contents/Resources/Japanese.lproj/Themes/

重要 スタイルファイルの総数は、50 に制限されています。

- 複製したファイルの名前を変更し、新しいファイル名に拡張子 .fth を付けます。

新しいファイルは、「Themes」フォルダに入れたままにしておきます。新規レイアウト/レポートアシスタントにスタイルオプションを表示するには、スタイルファイルが「Themes」フォルダに配置されており、拡張子 .fth が付いている必要があります。

- テキストエディタでスタイルファイルを開きます。



- THEMENAME エレメントの値を新しい名前に置き換えて、スタイルの名前を変更します。

```
<THEMENAME VALUE=" パープル/ホワイト画面" />
```

重要 THEMENAME の値に ASCII の上位文字が含まれる場合は、HINT 属性を使用して、Windows と Mac OS X のどちらのプラットフォームでもスタイル名が表示されるようにします。

- 他のエレメントと属性の値を変更します。

たとえば、レイアウトのボディ部分の背景の塗りつぶし色を明るい紫色に変更するには、次のように色の 16 進値を #9933CC に変更します。

```
<BODYPART>
  <FILL COLOR = "#9933CC" PATTERN = "2" />
```

- 指定する必要のないエレメントは削除します。

1 行エレメントや複数行エレメントを削除する際は、開始タグと終了タグを含む全体を削除してください。

- 次の FMTHEME エレメントまで画面をスクロールしてこれらの手順を繰り返し、THEMENAME 値と他のエレメントを変更します。

- ファイルに拡張子 .fth を付けて「Themes」フォルダにテキスト形式で保存します。

新しい THEMENAME 値は、新規レイアウト/レポートアシスタントに [レイアウトスタイル] オプションとして表示されます。

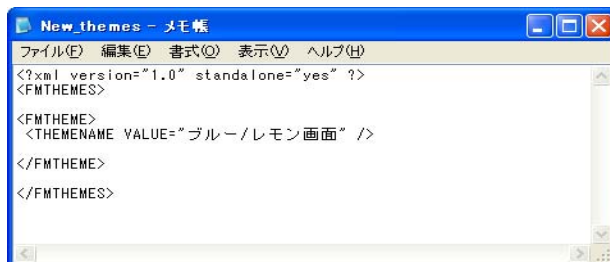
- FileMaker Pro Advanced で [レイアウト] メニュー > [新規レイアウト/レポート] を選択して、スタイルを使用します。

新規レイアウト/レポートアシスタントの指示に従います。カスタムスタイルの名前がオプションとして表示されます。3 番目のパネルに、選択できるスタイルのリストが表示されます。

新規レイアウト/レポートアシスタントに新しいスタイルが表示されない場合は、構文エラーの可能性がります。

スタイルファイルの必要条件

各スタイルファイルは、XML 1.0 仕様を使用してファイルを XML ドキュメントとして宣言する XML ドキュメント処理命令で始まる必要があります。さらに、レイアウトスタイル用の XML ドキュメントには、そのファイルの <FMTHEMES> 開始タグと </FMTHEMES> 終了タグが含まれる必要があります。この FMTHEMES ルートエレメントには、1 つまたは複数の FMTHEME エレメントを含めることができます。



スタイルファイルに最低限必要なエレメント

スタイルエレメントと属性の詳細については、ヘルプを参照してください。

第4章

ファイルのデバッグおよび分析

この章では、FileMaker Pro Advanced の次の機能について説明します。

- スクリプトデバッグ。FileMaker スクリプトの系統的なテストおよびデバッグを行うことができます。
- スクリプトステップ無効化機能。スクリプトを部分的にテストできます。
- データベースデザインレポート機能。データベースのスキーマとオプションに関してあらゆる情報を網羅したドキュメントを発行します。
- データビューア。フィールド、変数、計算式の監視ができます。

メモ FileMaker Pro Advanced の使用に関する情報を網羅した詳細および手順ごとの操作については、ヘルプを参照してください。

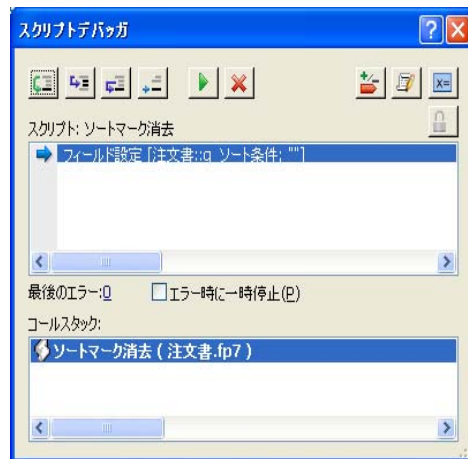
スクリプトのデバッグ

FileMaker Pro Advanced では、スクリプトデバッグを使用して、次のような操作ができます。

- スクリプトメニューまたはキーボードショートカットから実行されるスクリプトをデバッグする
- 起動スクリプトをデバッグする（開いたファイルがなくても、スクリプトデバッグのメニューは有効）
- スクリプトトリガ、ボタンまたはカスタムメニューにより有効化されたスクリプトをデバッグする
- スクリプトを一度に1ステップ実行する
- サブスクリプトを表示および追跡する
- フィールド、変数、計算式を監視する
- スクリプトステップを無効にする
- アクセスが制限されたスクリプトをデバッグする
- スクリプトエラーが発生した時にスクリプトを一時停止する
- スクリプトエラー番号をクリックして、ヘルプトピックを開く

デバッグモードでスクリプトを実行するには、次の操作を行います。

1. [ツール]メニューから[スクリプトデバッグ]を選択します。
[スクリプトデバッグ]ダイアログボックスが開きます。
2. スクリプトを実行します。



スクリプト デバッガでスクリプトを表示すると、サブスクリプトが表示できます。たとえば、スクリプト A がスクリプト B を呼び出し、スクリプト B がスクリプト C を呼び出す場合、3つのスクリプトすべてでステップを表示できます。

スクリプトデバッガでは、各スクリプトに設定されているアクセス権が認識されます。スクリプトを編集する権限があり、スクリプトに対するアクセス権限が [変更可能] に設定されている場合にのみ、スクリプトデバッガにスクリプトが表示されます。[スクリプトの認証 / 認証解除] をクリックして、アクセスが制限されたスクリプトにログインし、スクリプトステップを編集することができます。

[スクリプトデバッガ] ウィンドウで、ステップ一覧から複数のステップを選択し、ステップに同時の複数のブレークポイントを配置できます。複数のステップを選択すると、[次のステップを設定] ボタンが無効になります。

メモ

- ボタンやカスタムメニューで呼び出したスクリプトステップ上には、ブレークポイントを設定できません。
- スクリプトトリガによって有効になったスクリプトを1行ずつ実行するためにスクリプトデバッガを使用すると、ドキュメントウィンドウの処理、フィールドまたはレコード間の移動、データの変更、ウィンドウを閉じること、または終了することができません。スクリプト処理のブロックは、スクリプトが何らかの操作によってトリガされた場合のみ起こります。スクリプトトリガによって有効化されていないスクリプトをデバッグすると、ドキュメントウィンドウ、フィールド、およびレコードの処理は問題なく実行されます。スクリプトトリガ使用の詳細については、ヘルプを参照してください。

ヒント [スクリプトの管理] ダイアログボックスからスクリプトデバッガを有効にするには、Shift キーを押しながら [実行] ボタンをクリックします。スクリプトデバッガを無効にするには、Ctrl (Windows) キーまたは Command (Mac OS) キーを押しながら [実行] ボタンをクリックします。

スクリプトステップの無効化

スクリプトステップを無効および有効にして、スクリプトを部分的にテストできます。スクリプトを実行するとき、無効なスクリプトステップは無視されます。

スクリプトステップを無効にするには、次の操作を行います。

1. [スクリプト] メニュー > [スクリプトの管理] を選択します。
または、[ファイル] メニュー > [管理] > [スクリプト ...] を選択します。
2. [スクリプトの管理] ダイアログボックスでスクリプト名をダブルクリックします。
または、[スクリプトデバッガ] ダイアログボックスの [編集] ボタンをクリックします。
3. [スクリプトの編集] ダイアログボックスで1つまたは複数のスクリプトステップを選択し、[無効] または [有効] をクリックします。


スクリプトのデバッグの詳細については、ヘルプを参照してください。

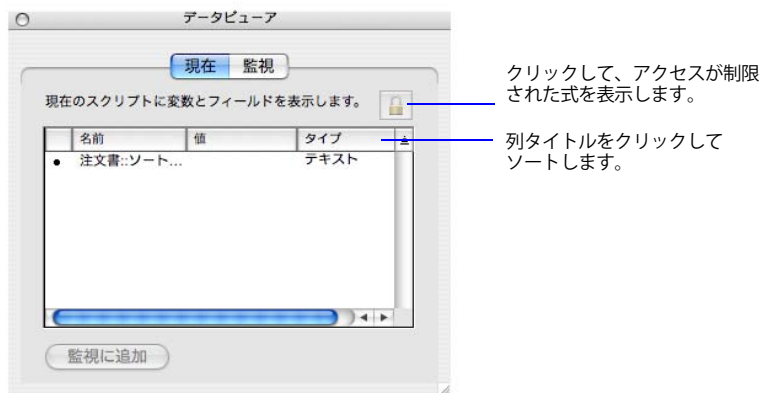
データビューアの使用


データビューアを使用して、フィールド値、ローカル変数とグローバル変数、および計算式などの式を監視することができます。スクリプトを実行する間、またはスクリプト デバッガでスクリプトをテストする間、これらの式を監視できます。

[現在] タブには、現在実行中のスクリプトのフィールドと変数、スクリプトで使用される計算式の参照フィールド、およびグローバル変数が表示されます。[監視] タブでは、入力した式が一覧から削除されるまで監視されます。

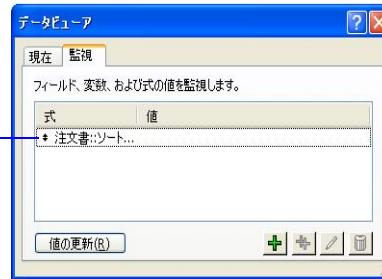
フィールド、変数、計算式を監視するには、次の操作を行います。

1. [ツール]メニューから[データビューア]を選択するか、または[スクリプトデバッガ]ウィンドウで[データビューアを開く/閉じる]  ボタンをクリックします。



2. [現在] タブで、値をダブルクリックして、次の操作ができるダイアログボックスを表示します。
 - ローカル変数またはグローバル変数を表示、編集、コピーします。
 - フィールド値を表示します（編集はしません）。
3. 式をソートするには、列タイトルをクリックします。式では、フィールド、グローバル変数、ローカル変数の順序で独立にソートされます。
4. [監視] タブに式を追加するには、[監視に追加] をクリックします。
式は [監視] タブにコピーされ、[監視] タブが開きます。
5. アクセスを制限されたスクリプトを表示するには、 をクリックして、完全アクセス権があるアカウントにログインします。
メモ スクリプトデバッガでアクセスの制限されたスクリプトにログインして編集する場合、アクセス権はデータビューアにも適用されます。データビューアからログインした場合、アクセス権はスクリプトデバッガにも適用されます。いずれの場合も、編集アクセス権はスクリプトデバッガまたはデータビューアを閉じるまで続きます。
6. [監視] タブをクリックします。

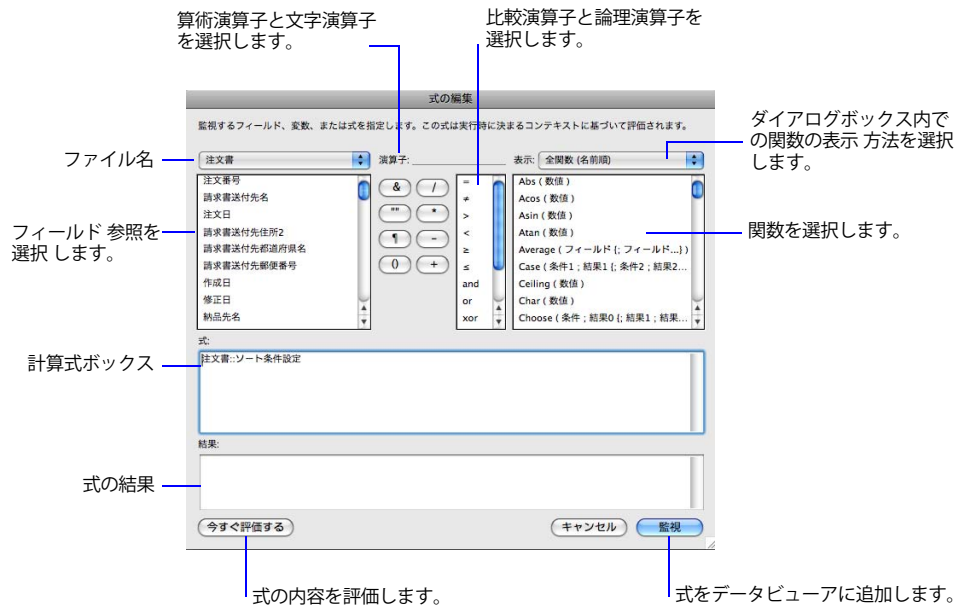
順序を変更するには、矢印を上
下にドラッグします。



7. 次のいずれかを選択します。

目的	実行方法
式を追加する	をクリックします。
式を編集する	式を選択してから、 をクリックするか、式をダブルクリックします。
式を複製する	1つまたは複数の式を選択して、 をクリックします。
式を削除する	1つまたは複数の式を選択して、 をクリックします。

8. [式の編集] ダイアログボックスで、式を含むデータベースファイルを選択し、監視する式を作成または編集します。



9. [今すぐ評価する] をクリックして式の結果を表示するか、または [監視] をクリックしてデータビューアの監視リストに式を追加します。

10. データビューアで、[値の更新] をクリックして、一覧内の計算を更新します。

データビューアの使用の詳細については、ヘルプを参照してください。

データベースデザインレポートの使用

DDR（データベースデザインレポート）機能を使用すると、データベースのスキーマをドキュメント化して、HTML または XML ファイルに出力することができます。データベース内のどのエレメントやデータベーステーブルをレポートに含めるかを選択できます。HTML バージョンのレポートにはハイパーリンクが設定されるため、Javascript で有効な Web ブラウザで表示または印刷できます。

データベースデザインレポート機能を使用して、次の操作を行うことができます。

- データベーススキーマをテキストで表示して確認する
- データベースの構造に関する統計を収集する
- 元のデータベースファイルが失われた場合に、レポートの情報を使用してデータベースの構造を再作成する
- 破損した参照、リレーションシップ、計算式などのトラブルシューティング

データベースデザインレポートを作成するには、次の操作を行います。

1. データベース デザイン レポートを生成するすべてのデータベースファイルを開きます。

データベースデザインレポートを生成するすべてのファイルに対して、完全アクセス権が必要です。また、ファイルを FileMaker Pro Advanced で開く必要があります。データベースデザインレポートは、ローカルまたはリモートのファイルで実行できます。

2. [ツール]メニューから [データベースデザインレポート...] を選択します。
3. [使用できるファイル:]の一覧で、レポートから除外するファイルに対応するチェックボックスの選択を解除します。
4. レポートから除外するテーブルが含まれるファイルがある場合は、[使用できるファイル:]の一覧でファイルを選択します。

[選択したテーブルのフィールドを含める:]の一覧に、ファイル内のテーブルが表示されます。この一覧でテーブルの選択を解除することができます。

デフォルトでは、選択したすべてのファイル内にあるすべてのテーブルがレポートされます。

5. レポートから除外する要素の選択を解除します。

デフォルトでは、選択したすべてのファイル内にあるすべての要素がレポートされます。特定の要素を選択した場合は、選択した各要素が選択した各ファイルに対してレポートされます。
6. デフォルトの HTML 形式ではなく、XML 形式でレポートを発行する場合は、[レポート形式:]セクションで [XML] を選択します。
7. 完了時にレポートを自動的に開かないようにする場合は [ファイルの処理:]セクションのチェックボックスの選択を解除します。
8. [作成] をクリックします。

データベースデザインレポートの使用の詳細については、ヘルプを参照してください。

第5章

サードパーティ FileMaker プラグインの開発

C または C++ プログラマの方で、FileMaker Pro と FileMaker Pro Advanced の計算式に精通している場合、アプリケーションの機能を拡張する外部関数プラグインを作成できます。外部関数プラグインでは、再帰やループを利用したり、他のプログラミングインターフェースをフックすることができます。ユーザは、FileMaker Pro、FileMaker Pro Advanced、FileMaker Server、および FileMaker Server Advanced でプラグインを有効にして、計算フィールドやスクリプトで独自の外部関数を使用できます。

FileMaker Server を使用すると、FileMaker Pro クライアントのコンピュータに必ず最新のプラグインソフトウェアがインストールされているようにできます。『FileMaker Server プラグインの更新ガイド』を参照してください。www.filemaker.co.jp から入手できます。

プラグインプロジェクトのサンプルを見るには、www.filemaker.co.jp/support/technologies を参照して下さい。

プラグインをユーザにアクセスできるようにする

データベースユーザは、[計算式の指定] ダイアログボックスで外部関数を使用してプラグインにアクセスします。

カスタムプラグインを準備するには、次の操作を行います。

1. カスタムプログラムコードが含まれるプラグインファイルを作成します。
2. カスタムプラグインをコンパイルし、テストします。
3. コンパイルしたプラグインをユーザのシステムにインストールします。

外部関数プラグインファイルは、適切なフォルダにインストールし、FileMaker Pro、FileMaker Pro Advanced、または FileMaker Server で有効にした後でなければ使用できません。

外部関数にアクセスするには、次の操作を行います。

1. FileMaker Pro の [環境設定] ダイアログボックスでプラグインを有効にします。
2. 必要に応じて、プラグインを設定します。
3. 計算フィールドを定義または編集して、外部関数にアクセスします。
4. [計算式の指定] ダイアログボックスで、計算式として「関数名 (引数 1...)」を選択します。

すべての外部関数を表示するには、[表示 :] ドロップダウンリストから [外部関数] を選択します。

プラグインのインストール

プラグイン（およびプラグインが参照するライブラリ）の中には、システムにログインしているユーザが実行した場合にのみ読み込まれるものがあります。FileMaker Server は、ユーザプロセスとしてではなくサービスとして実行されます。そのため、FileMaker Server で動作するように異なる方法でプラグインを作成する必要があります。ユーザは、オペレーティングシステムのマニュアルを参照して、どのライブラリが標準的に使用可能かを確認する必要があります。Web 公開プラグインのインストールの詳細については、FileMaker Server ヘルプを参照してください。

プラグインをインストールするには、プラグインファイルを FileMaker ユーザの「Extensions」フォルダにドラッグします。

オペレーティングシステム： プラグインの格納先フォルダ：

Windows XP	C:\¥ Documents and Settings ¥ ユーザ名 ¥ Local Settings ¥ Application Data ¥ FileMaker ¥ Extensions ¥
Windows Vista または Windows 7	C:\¥ users ¥ ユーザ名 ¥ AppData ¥ Local ¥ FileMaker ¥ Extensions ¥
Mac OS X	Macintosh HD/ ユーザ / ユーザ名 / ライブラリ / Application Support/FileMaker/ Extensions

Windows では、プラグインの拡張子は .fmx です。Mac OS X では、プラグインの拡張子は .fmplugin です。

プラグインの有効化

プラグインを有効にするには、次の操作を行います。

1. [環境設定] ダイアログボックスを開きます。

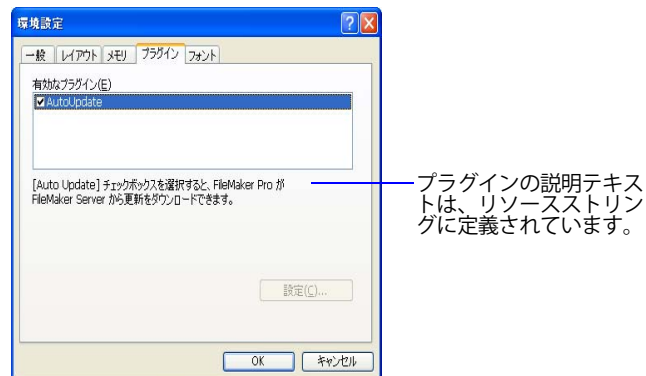
Windows：[編集]メニュー>[環境設定...]を選択します。

Mac OS X：[FileMaker Pro Advanced]アプリケーションメニュー>[環境設定...]を選択します。

2. [プラグイン]タブをクリックします。

3. 一覧からプラグインを選択します。

プラグインは、FileMaker フォルダに正しくインストールされている場合に一覧表示されます。FileMaker Pro の起動時に、現在のユーザの FileMaker の「Extensions」フォルダに格納されているプラグインを最初にロードします。そのフォルダの中に必要なプラグインが見つからなかった場合、FileMaker Pro は FileMaker Pro アプリケーション用の「Extensions」フォルダの中を検索します。



有効にするプラグインを選択します。

プラグインの設定

プラグインを設定するには、次の操作を行います。

1. [環境設定] ダイアログボックスでプラグインを選択します。

2. [設定...]をクリックします。

[設定...] ボタンを使用できるのは、選択したプラグインのオプションストリングにある6文字目が「Y」に設定されているときだけです。

3. 設定ダイアログボックスの指示に従って、プラグインを設定します。

4. [OK] をクリックします。

付録 A

ランタイムアプリケーションと FileMaker Pro の機能比較

FileMaker Pro アプリケーションアイコンをダブルクリックしてアプリケーションを起動すると、新規データベースを作成したり、開くファイルを選択することができます。FileMaker Pro ランタイムアプリケーションを起動した場合は、バインドされた主要なデータベースファイルが自動的に開きます。

ランタイムアプリケーションと FileMaker Pro の主な相違点は次のとおりです。

- ランタイムアプリケーションでは、すべてのデータベースデザイン機能は削除されているか、または表示されません。
これには [レイアウトモード]、および [管理] サブメニューのコマンドが含まれます。
- FileMaker Pro Advanced で作成されたカスタム関数とカスタムメニューはランタイムアプリケーションで動作しますが、ランタイムアプリケーションのユーザは、新しいカスタム関数またはカスタムメニューを変更または作成できません。
- ランタイムアプリケーションからは、他のいくつかのメニューコマンドも削除されています。
たとえば、ランタイムアプリケーションを使用してデータベースを作成したり、ファイルを開閉したりすることはできません。バインドされたランタイムデータベースファイルには、他のファイルを開閉するカスタムボタンまたはスクリプトを含めなければなりません。また、ランタイムデータベースウインドウにはウインドウを閉じるためのコマンドはありません。
- ランタイムアプリケーションでは、FileMaker Pro ヘルプは使用できません。ただし、カスタムメニュー機能を使用して、作成したカスタマイズ済みヘルプテキストを表示できます。
- [環境設定] ダイアログボックスで、外部関数のプラグインを有効にすることができます。
- [ファイルを変換] スクリプトステップのオプションとして XML データフィルタが表示されますが、ランタイムアプリケーションではこのスクリプトステップを使用して XML ファイルを変換することはできません。
- FileMaker Pro のファイル共有、Web 上でのデータベースの公開、または Java アプレットとの通信には、FileMaker Pro または FileMaker Pro Advanced が必要です。ただし、互換性があるバージョンの FileMaker Server を使用して、ランタイムソリューションファイルを公開することはできます。
- Apple Event はサポートされていますが、Windows マシン上のランタイムアプリケーションでは OLE オートメーションはサポートされていません。
- ランタイムアプリケーションはネットワークで共有できません。
- ランタイムアプリケーションには、Adobe PDF ファイルとして [レコードの保存/送信] する機能が含まれていません。
- FileMaker Pro Advanced の機能は、ランタイムアプリケーションでは利用できません。
ただし、ランタイムデータベースは、FileMaker Pro または FileMaker Pro Advanced のどちらかで開くことができます。完全なアクセス権限が削除されている場合を除き、これらのアプリケーションの全機能が有効です。
- ランタイムアプリケーションでは、外部 SQL データソース (ESS)、ODBC インポート、あるいは [SQL を実行] スクリプトステップをサポートしていません。
- グラフは、ランタイムソリューションではサポートされません。

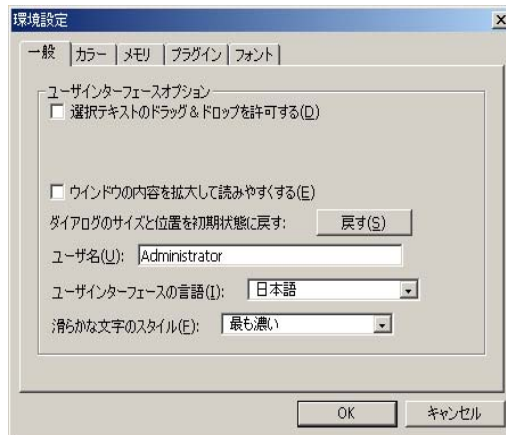
アプリケーションおよびファイルの初期設定

ランタイムアプリケーションでは、[環境設定] ダイアログボックスの [一般] タブ上のいくつかのオプションが使用できません。



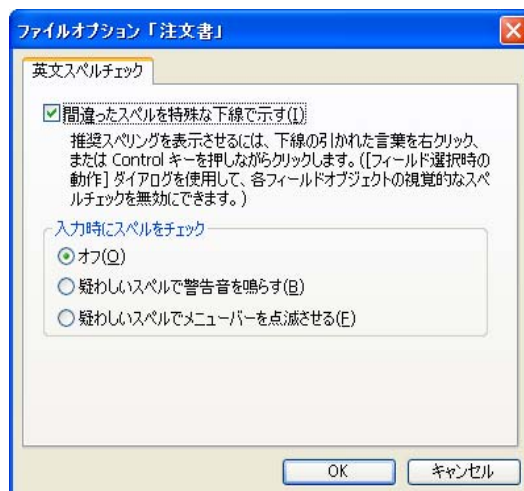
ランタイムアプリケーションの一般環境設定 (Mac OS X)

ランタイムアプリケーションの [環境設定] ダイアログボックスでは、[レイアウト] タブが [カラー] タブに変わります。



ランタイムアプリケーションの [一般] 環境設定 (Windows)

ランタイムアプリケーションの [ファイルオプション] ダイアログボックスでは、[英文スペルチェック] タブしか表示されません。



ランタイムアプリケーションの [ファイルオプション] ダイアログボックス

メニューコマンドの比較

次の表は、FileMaker Pro およびランタイムアプリケーションで使用可能なメニューコマンドを示します（表の「Pro」は FileMaker Pro を、「RT」はランタイムアプリケーションを示します）。

ファイルメニューコマンド	Windows		Mac OS X	
	Pro	RT	Pro	RT
新規データベース	■		■	
Starter Solution から新規作成	■		■	
開く	■		■	
共有ファイルを開く	■		■	
最近使ったファイルを開く	■		■	
お気に入りを開く	■		■	
閉じる	■		■	
管理	■		■	
共有設定	■		■	
ファイルオプション	■	■	■	■
パスワード変更	■	■	■	■
印刷設定	■	■		
用紙設定			■	■
印刷	■	■	■	■
レコードのインポート	■	■	■	■
レコードのエクスポート	■	■	■	■
レコードの保存 / 送信	■	1	■	1
送信	■	2	■	2
名前を付けて保存	■	■	■	■
修復	■	3	■	4
終了	■	■		

1. PDFまたはスナップショットリンクとして[レコードの保存/送信]はできません。
2. データベースにリンクは送信できません。
3. Ctrl+Shift を押す
4. Option+⌘ を押す

メモ [開く]、[閉じる]、および[修復]の各メニューコマンドに似たメニュー項目を、スクリプトまたはスクリプトステップに基づいたカスタムメニューを使用して、ランタイムアプリケーションに追加できます。詳細については、22 ページの「カスタムメニューの作成」を参照してください。

【編集】メニューコマンド	Windows		Mac OS X	
	Pro	RT	Pro	RT
元に戻す / 元に戻せません	■	■	■	■
再実行 / やり直し不可	■	■	■	■
カット	■	■	■	■
コピー	■	■	■	■
貼り付け / ペースト	■	■	■	■
特殊貼り付け	■	■		
消去	■	■	■	■
複製	■		■	
すべてを選択	■	■	■	■
検索 / 置換	■	■	■	■
英文スペルチェック	■	■	■	■
オブジェクト	■	■		
フィールド内容のエクスポート	■	■	■	■
環境設定	■	■		

【表示】メニューコマンド	Windows		Mac OS X	
	Pro	RT	Pro	RT
ブラウズモード	■	■	■	■
検索モード	■	■	■	■
レイアウトモード	■		■	
プレビューモード	■	■	■	■
レイアウト切り替え	■	■	■	■
フォーム形式	■	■	■	■
リスト形式	■	■	■	■
表形式	■	■	■	■
ステータスツールバー	■	■	■	■
ステータスツールバーのカスタマイズ	■	■	■	■
書式設定バー	■	■	■	■
テキスト定規	■	■	■	■
拡大表示	■	■	■	■
縮小表示	■	■	■	■

【挿入】メニューコマンド	Windows		Mac OS X	
	Pro	RT	Pro	RT
ピクチャ	■	■	■	■
QuickTime	■	■	■	■
サウンド	■	■	■	■
ファイル	■	■	■	■
オブジェクト	■	■		
現在の日付	■	■	■	■
現在の時刻	■	■	■	■
現在のユーザ名	■	■	■	■
索引一覧	■	■	■	■
直前に参照したレコード	■	■	■	■

【書式】メニューコマンド	Windows		Mac OS X	
	Pro	RT	Pro	RT
フォント	■	■	■	■
サイズ	■	■	■	■
スタイル	■	■	■	■
テキスト配置	■	■	■	■
行間	■	■	■	■
文字色	■	■	■	■

【レコード】メニューコマンド	Windows		Mac OS X	
	Pro	RT	Pro	RT
新規レコード	■	■	■	■
レコード複製	■	■	■	■
レコード削除	■	■	■	■
対象レコード削除 / 全レコード削除	■	■	■	■
レコードへ移動	■	■	■	■
ウインドウ内容の再表示	■	■	■	■
全レコードを表示	■	■	■	■
対象外のみを表示	■	■	■	■
レコードを対象外に	■	■	■	■
複数レコードを対象外に	■	■	■	■
検索条件を変更	■	■	■	■

[レコード]メニューコマンド	Windows		Mac OS X	
	Pro	RT	Pro	RT
保存済み検索	■	■	■	■
レコードのソート	■	■	■	■
ソート解除	■	■	■	■
フィールド内容の全置換	■	■	■	■
フィールド内容の再ルックアップ	■	■	■	■
レコード復帰	■	■	■	■

[検索条件]メニューコマンド (検索モード)	Windows		Mac OS X	
	Pro	RT	Pro	RT
新規検索条件	■	■	■	■
検索条件複製	■	■	■	■
検索条件削除	■	■	■	■
検索条件へ移動	■	■	■	■
全レコードを表示	■	■	■	■
検索実行	■	■	■	■
対象レコードの絞り込み	■	■	■	■
対象レコードの拡大	■	■	■	■
検索条件復帰	■	■	■	■

[スクリプト]メニューコマンド	Windows		Mac OS X	
	Pro	RT	Pro	RT
スクリプトの管理	■		■	
スクリプトの保存	■		■	
すべてのスクリプトの保存	■		■	
スクリプト復帰	■		■	
<スクリプト名>	■	■	■	■

メモ [スクリプトの保存]、[すべてのスクリプトの保存]、および[スクリプト復帰]が表示されるのは、[スクリプトの管理]ダイアログボックスまたは[スクリプトの編集]ダイアログボックスのどちらかが開いている場合のみです。

[ウインドウ]メニューコマンド	Windows		Mac OS X	
	Pro	RT	Pro	RT
新規ウインドウ	■	■	■	■
ウインドウを表示	■	■	■	■
ウインドウを隠す	■	■	■	■
ウインドウを最小化	■	■	■	■
上下に並べて表示	■	■	■	■
左右に並べて表示	■	■	■	■
重ねて表示	■	■	■	■
アイコンの整列	■	■		
すべてを手前に移動			■	■
<開いているファイルの名前>	■	■	■	■

[ヘルプ]メニューコマンド	Windows		Mac OS X	
	Pro	RT	Pro	RT
FileMaker Pro ヘルプ	■		■	
ショートカットキー	■		■	
クイックスタート画面	■		■	
リソースセンター	■		■	
製品マニュアル	■		■	
コンサルタントとソリューション	■		■	
FileMaker のフィードバックの送信	■		■	
ソフトウェア更新の確認	■		■	
FileMaker Pro の登録	■		■	
FileMaker フォーラム	■		■	
サービスとサポート	■		■	
FileMaker Pro について (または FileMaker Pro Advanced について)	■		1	
FileMaker Pro について (カスタム情報スクリプトが指定されていない場合に表示)		■		1
<ランタイムソリューション>について (カスタム情報スクリプトが指定されている場合に表示)		■		1
<ランタイムソリューションのヘルプスクリプト名> (ヘルプスクリプトが指定されている場合に表示)		■		■

¹アプリケーションメニューコマンド表を参照してください。

アプリケーションメニューコマンド (Mac OS X のみ)	Pro	RT
FileMaker Pro について	■	
FileMaker Pro について (カスタム情報スクリプトが指定されていない場合に表示)		■
<ランタイムソリューション> について (カスタム情報スクリプトが指定されている場合に表示)		■
環境設定	■	■
サービス	■	■
FileMaker Pro を隠す	■	
<ランタイムソリューション> を隠す		■
ほかを隠す	■	■
すべてを表示	■	■
FileMaker Pro を終了	■	
<ランタイムソリューション> を終了		■

無視されるスクリプトステップ

ランタイムアプリケーションでは一部の機能が削除されているため、次のスクリプトステップはランタイムアプリケーションで無視されます。

- データベースの管理を開く
- 値一覧の管理を開く
- データソースの管理を開く
- スクリプトの管理を開く
- レイアウトの管理を開く
- 共有設定を開く
- ヘルプを開く
- マルチユーザ設定
- 新規作成
- ファイルオプションを開く (一部使用可能。[英文スペルチェック] タブが開きます)
- 共有ファイルを開く
- SQL を実行
- レコードを PDF として保存
- レコードをスナップショットリンクとして保存

メモ 指定のファイルがランタイムアプリケーションにバインドされなかった場合、[ファイルを開く] スクリプトステップはエラーを返します。外部ファイルがランタイムソリューションにバインドされた場合、ランタイムソリューションは外部スクリプトのみ実行できます。

保存されたレジストリ設定または環境設定

Windows マシンのレジストリ設定

FileMaker Pro は、レジストリ設定を次の場所に保存します。

HKEY_CURRENT_USER ¥ Software ¥ FileMaker ¥ FileMaker Pro ¥ .0

FileMaker Pro Advanced は、レジストリ設定を次の場所に保存します。

HKEY_CURRENT_USER ¥ Software ¥ FileMaker ¥ FileMaker Pro ¥ .0A

ランタイムアプリケーションは、レジストリ設定を次の場所に保存します。

HKEY_CURRENT_USER ¥ Software ¥ FileMaker ¥ <ソリューション名> ¥ .0

メモ ランタイムデータベースファイルのファイル拡張子は HKEY_CLASSES_ROOT に登録されます。

Mac OS X の環境設定

FileMaker Pro では、環境設定は次の場所に保存されます。

com.filemaker.client.pro.plist

FileMaker Pro Advanced では、環境設定は次の場所に保存されます。

com.filemaker.client.advanced.plist

ランタイムアプリケーションの環境設定は次の場所に保存されます。

com.filemaker.client.runtime.<ソリューション名>.plist

索引

C

C/C++ 35

D

Developer ユーティリティ

概要 9

ランタイムソリューションの作成 10

DLL (Dynamic Link Library) 13

E

XML (Extensible Markup Language) 25

Extensions フォルダ、プラグインの保存場所 13

F

FileMaker Pro Advanced 5

ソフトウェアライセンス 6

FileMaker Pro、使用可能なメニュー 39

FileMaker Server 15, 35, 37

fmplugin ファイル拡張子 36

fmx ファイル名拡張子 36

fth ファイル名の拡張子 26

I

InstallShield 14

J

JDBC、データソースとしての FileMaker 6

L

Logfile.txt 10

M

Mac OS X

保存された環境設定 45

ランタイムアプリケーションパッケージ 14

MacInstallerBuilder 14

Microsoft Windows、保存されたレジストリの設定 45

MindVision Installer VISE 14

O

ODBC、データソースとしての FileMaker 6

P

PDF マニュアル 6

S

SQL を実行スクリプトステップ 44

W

Web ビューア 15

Windows ランタイムアプリケーションパッケージ 14

X

XML

XML 1.0 仕様 27

XML ドキュメント処理命令 27

エディタ 25

レイアウトスタイルのドキュメント 25

あ

アカウントとアクセス権 7, 19

管理アクセスの削除 10

キオスクモード 17

アクセス権 7, 19

値一覧を開くスクリプトステップ 44

い

色、レイアウトスタイル 25

インストール手順 6

インターネット

データベース 6

ランタイムアプリケーション 37

え

エラーコード、スクリプトデバッガからの表示 29

エラーログ 10

か

外部関数 35

外部関数プラグイン

説明 35

有効化 36

ランタイムアプリケーション 37

拡張子、ファイル名 10

カスタム関数、作成 20

カスタムメニュー

- 概要 20
- 作成 22
- メニュー項目 23
- メニューセット 24
- 例 21

カスタムメニュー項目のキーボードショートカット 23

関数

- 外部 35
- カスタム 20

管理アクセス

- キオスクソリューションから削除 18
- ファイルから削除 10

関連ファイル

- アイコンをダブルクリックしたときの問題 13
- 更新 17

き

キオスクソリューション、作成 17

旧バージョンのファイルの変換 11

共有設定を開くスクリプトステップ 44

共有ファイルを開くスクリプトステップ 44

く

クロスプラットフォームソリューション 12

区切り線、メニュー項目 23

け

計算式

- 外部関数の使用 35
- カスタム関数 20
- 監視 31
- 詳細 31

こ

更新

- プラグイン 35
- ランタイムソリューション 16

構造、データベース 33

コマンド、メニュー

- ランタイムアプリケーションで使用可能 39

さ

サブメニューの管理、ランタイムアプリケーションで利用不可 37

し

式、監視 31

ショートカット、キーボード 23

新機能 6

新規ファイルスクリプトステップ 44

新規レイアウト/レポートアシスタント 25, 26

「情報 (About スクリーン)」レイアウト
必要な内容 7

す

スキーマ、データベース

- コピーまたはインポート 19
- ドキュメント作成 33

スクリプト

- スクリプトステップの無効化 30
- デバッグ 29
- 認証 30
- ランタイムアプリケーションによって無視されるステップ 44
- ロック解除 30

スクリプトステップの無効化 30

スクリプトデバッグ

- スクリプトトリガの使用 30
- 説明 29

スクリプトトリガ、デバッグ 30

スクリプトの管理 30

スクリプトの管理を開くスクリプトステップ 44

スクリプトのデバッグ 29

スクリプトの認証 30

スクリプトのロック解除 30

スクリプトメニュー

- ランタイムアプリケーションで使用可能なコマンド 42

スタイル 25

せ

設定ファイル 10

そ

ソフトウェアライセンス 6

ソリューションファイル

- アイコン 13
- アイコンをダブルクリックしたときの問題 13

損傷ランタイムファイルの修復 15

た

タッチスクリーン 17

ち

チュートリアル、FileMaker Pro 6

て

データソース

- 更新 16
- 自動的な更新 9

データビューア 31

データベース構造、再作成 33
 データベーススキーマ
 コピーまたはインポート 19
 データベースデザインレポート 33
 データソースの管理を開くスクリプトステップ 44
 データベースの管理を開くスクリプトステップ 44
 テーブル、データベース
 スキーマのコピーまたはインポート 19
 データベースデザインレポートから除外 33
 テキストエディタ 25
 テスト
 スクリプト 29

と

ドキュメント作成
 ランタイムソリューション 15
 トラブルシューティング
 計算式 31
 スクリプトデバッグ 29
 フィールド 31
 変数 31

ね

ネットワーク、ソリューションの共有 15

は

バインドキー
 概要 12
 ランタイムデータベースソリューションの更新 16
 パスワード「情報 (About スクリーン)」レイアウトで必要 7
 パターン、レイアウトスタイル 25
 バックアップ 16

ひ

表示時間、スプラッシュスクリーン 12

ふ

ファイル参照データソースを参照
 ファイル
 管理アクセスの削除 10
 更新 9
 名前変更 9
 変換 11
 ランタイムの圧縮 15
 ファイルオプションを開くスクリプトステップ 44
 ファイル拡張子
 データベースファイル用 10
 プラグイン 36
 ランタイムソリューション 12
 レイアウトスタイル 26
 ファイルの名前変更 9
 ファイルを開くスクリプトステップ 44

フィールド
 監視 31
 スキーマのコピー 19
 フィールドスキーマまたはテーブルスキーマのコピー 19
 フォルダ構成、ソリューション 13
 フォント
 ユーザのシステムにないフォント 14
 レイアウトスタイル 25
 プラグイン
 インストール 35
 準備 35
 設定 36
 ランタイムアプリケーション 37
 プラグインの設定 36
 プロジェクトフォルダ 9, 12

へ

ヘルプ
 ランタイムアプリケーションで使用可能なメニューコマンド 43
 ヘルプを開くスクリプトステップ 44
 変数、監視 31

ほ

法的必要条件 6

ま

マニュアル (PDF) 6
 マルチユーザ設定スクリプトステップ 44

め

メインファイル
 関連ファイルの接続 11
 更新 16
 指定 9
 メッセージ、エラーログ 10
 メニューコマンド、ランタイムアプリケーションで使用可能 39
 メニューセット、作成 24
 メニュー区切り線 23

ゆ

ユーザによるデータベースソリューションの操作 11

ら

ランタイムアプリケーション
 FileMaker Pro との比較 37
 アイコン 13
 使用可能なメニューコマンド 39
 プラグインの有効化 37
 保存された Mac OS X の環境設定 45
 保存された Windows のレジストリ設定 45
 無視されるスクリプトステップ 44

ランタイムアプリケーションで使用可能なウィンドウメニューのコマンド 43

ランタイムアプリケーションで使用可能な環境設定 38

ランタイムアプリケーションで使用可能な検索条件メニューのコマンド 42

ランタイムアプリケーションで使用可能な書式メニューのコマンド 41

ランタイムアプリケーションで使用可能な挿入メニューコマンド 41

ランタイムアプリケーションで使用可能な表示メニューコマンド 40

ランタイムアプリケーションで使用可能なファイルメニューコマンド 39

ランタイムアプリケーションで使用可能な編集メニューコマンド 40

ランタイムアプリケーションで使用可能なレコードメニューのコマンド 41

ランタイムアプリケーション内のファイルを開く 37

ランタイムアプリケーションの Apple Event 37

ランタイムアプリケーションの OLE オートメーション 37

ランタイムソリューションのアイコン 13

ランタイムソリューションの起動 13

ランタイムソリューションのスプラッシュスクリーン
起動 11
閉じる 12

ランタイムソリューションのバインド 12

ランタイムデータベースソリューション
起動 13
更新 16
作成 10
損傷ファイルの修復 15
ファイルの準備 10
ファイルのバインド 12
変換 11
「情報 (About スクリーン)」レイアウトの必要条件 15

ランタイムデータベースソリューションに名前を付ける 12

ランタイムデータベースソリューションの頒布
概要 13
更新ファイルの頒布 16

ランタイムデータベースの圧縮ユーティリティ 15

ランタイムデータベースのインストーラ 14

ランタイムアプリケーションで使用可能なファイルオプション 38

れ

レイアウトスタイルのエレメント 27

レイアウトスタイルの属性 25

レイアウトスタイル、作成 25

レイアウトの管理を開くスクリプトステップ 44

レイアウトモードコマンド、ランタイムアプリケーションで利用不可 37

レコードを PDF として保存スクリプトステップ 44

レコードをスナップショットリンクとして保存スクリプトステップ 44

レジストリ、保存された設定 45

ろ

ロゴ、ランタイムソリューションへの追加 12